【データで考える子どもの世界】
第１回

部活動について考えるデータ

2018年7月26日（木）
2018年8月31日（金）改訂

ベネッセ教育総合研究所
木村　治生

【注意】

●データの引用・転載にあたっては、出典をご明記いただくようにお願いします。なお、ベネッセ教育総合研究所のデータについては、引用・転載のルールにしたがってご利用ください。

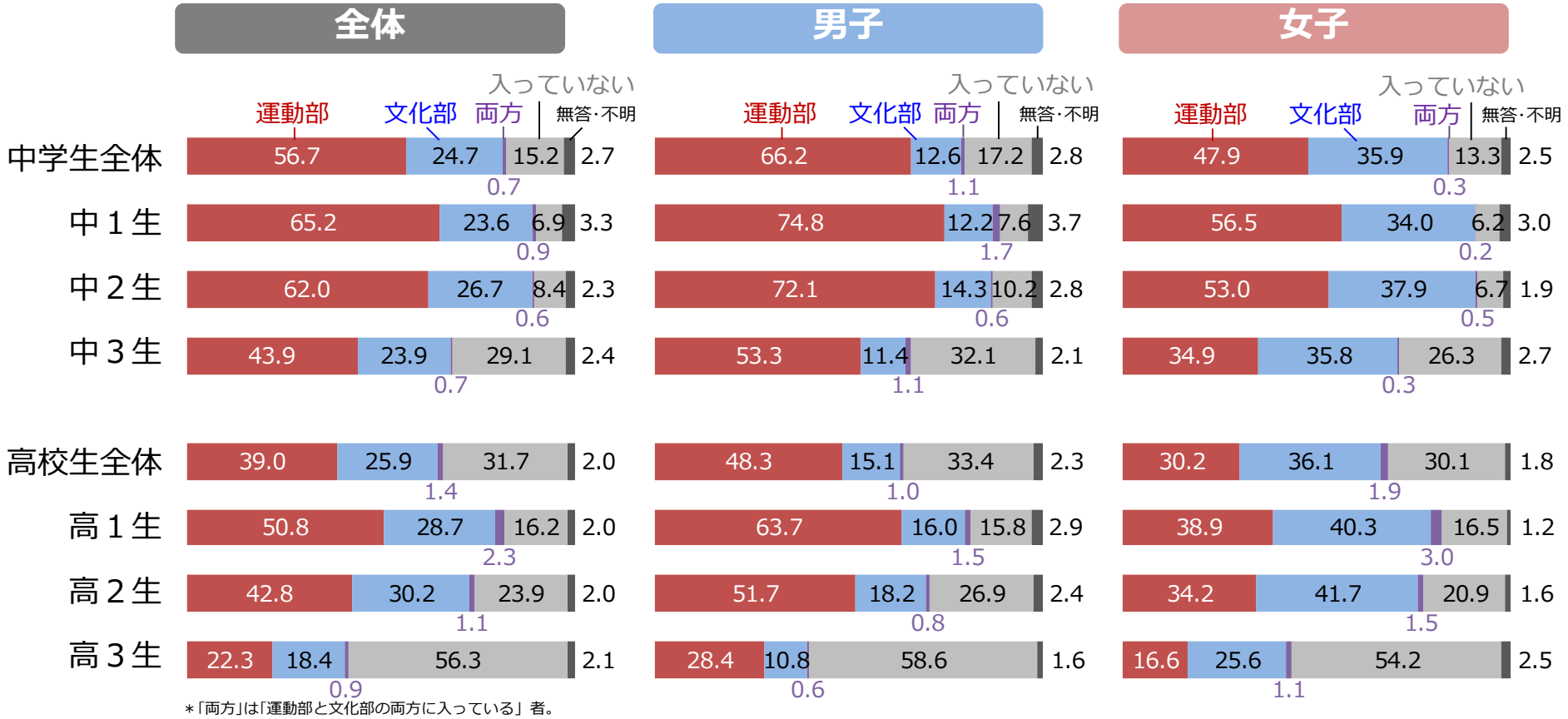
●本データ集の資料は、発行日時点に公表されているものを扱っていますが、その後、最新のデータが更新されている可能性があります。

子どもの調査

部活動の加入率

●部活動の加入率は、中学生全体で約８割、高校生全体で約７割である。
●中３生、高３生は、部活に加入している比率が下がる。
●相対的に見て、男子は運動部に、女子は文化部に加入している比率が高い。

●図表１：部活動の加入率（学年別）



＊「両方」は「運動部と文化部の両方に入っている」者。

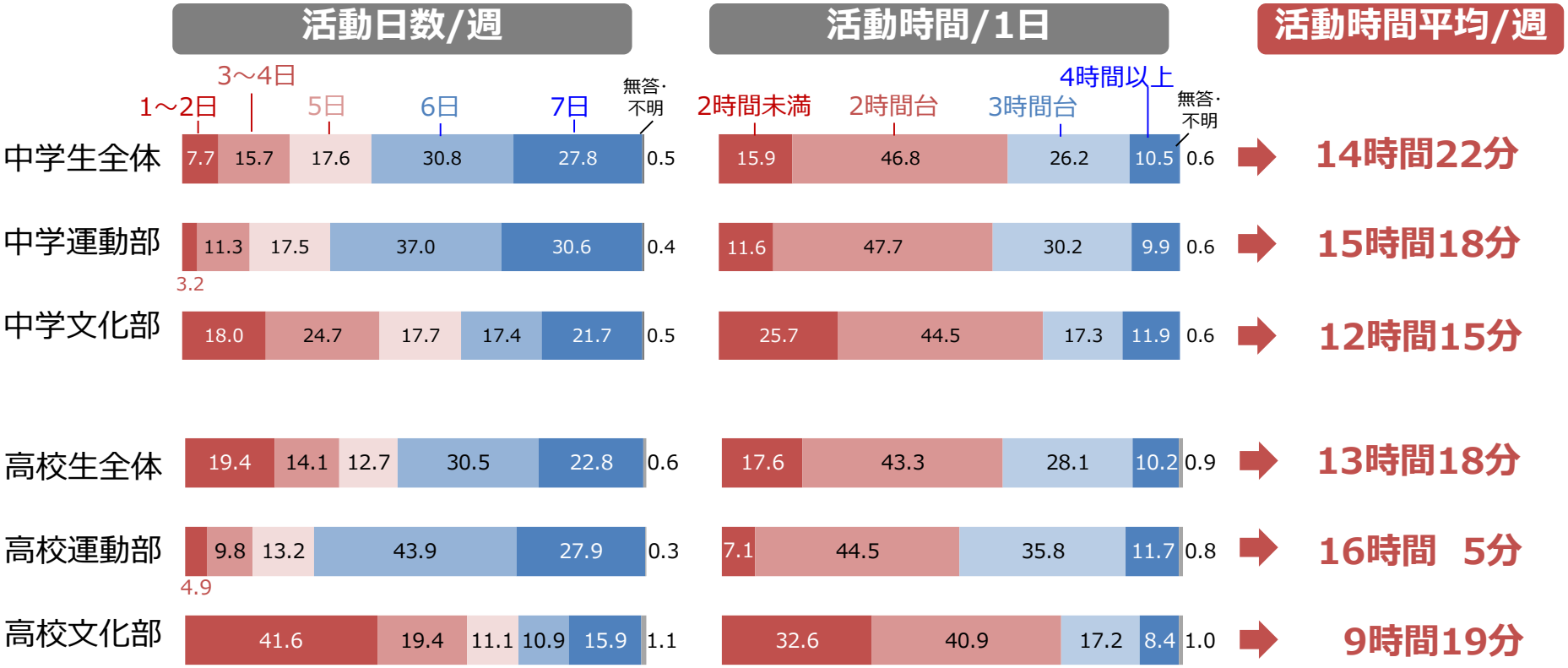
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生3,321名、高校生3,194名。調査は7～9月に実施しているため、中３生・高３生は引退している子どもが含まれている可能性が高い。

子どもの調査

部活動の頻度

- 活動日数の最頻値は、中学生、高校生ともに「6日」。「6日」＋「7日」で５割を超える。
- 活動時間は「2時間台」が多いが、「3時間台」を超える者も4割弱いる。
- 文化部よりも運動部のほうが、活動日数が多く、活動時間も長い。

●図表２：部活動の頻度（部活動に加入している生徒のみ）



＊「1～2日」は「1日」「2日」の合計、「3～4日」は「3日」「4日」の合計の数値。

＊「2時間未満」は「30分」「１時間」「1時間30分」、「2時間台」は「2時間」「２時間30分」、「3時間台」は「3時間」「3時間30分」、「4時間以上」は「4時間」「4時間より長い」の合計の数値。

＊「活動日数」と「活動時間」を乗じて算出。

＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」

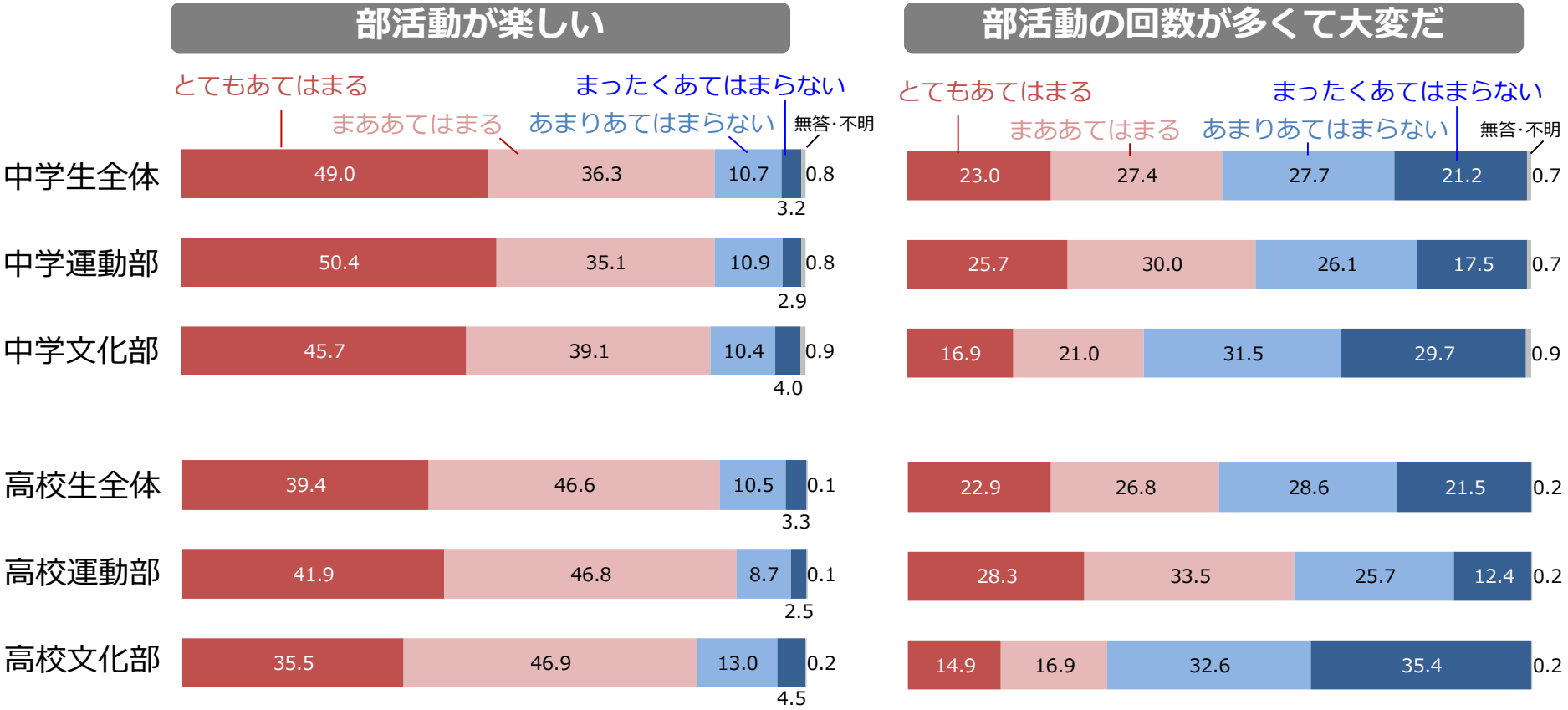
＊対象：中学生3,321名のうち部活動に加入している2,728名、高校生3,194名のうち部活動に加入している2,117名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

子どもの調査

部活動に対する意識

- ８割を超える生徒が、「部活動が楽しい」に「あてはまる」と回答。
- 約半数の生徒が、「部活動の回数が大変だ」に「あてはまる」と回答。
- 「楽しい」かどうかは運動部と文化部で大きな差はないが、「大変だ」は運動部が多い。

●図表３：部活動に対する意識（部活動に加入している生徒のみ）



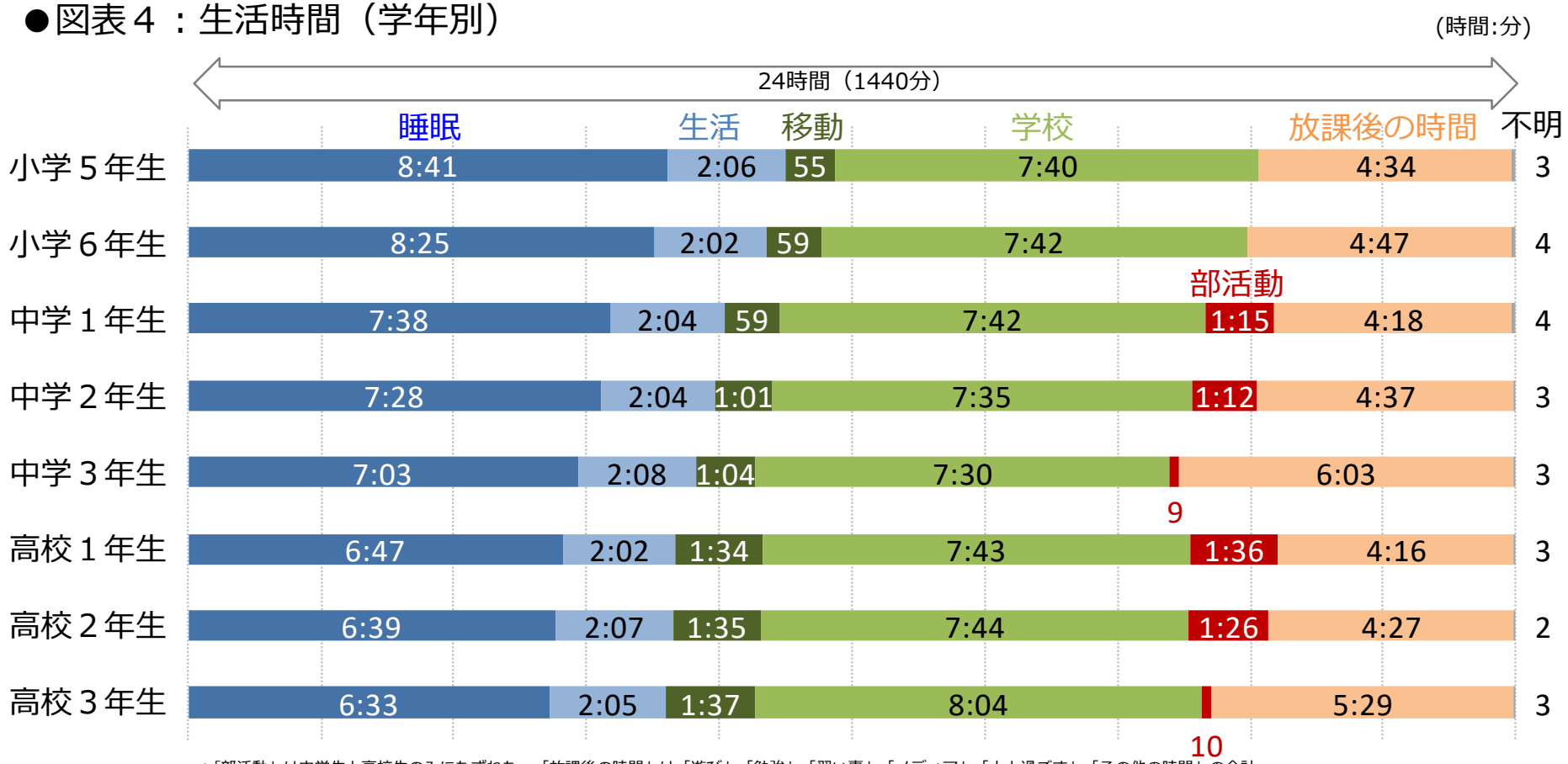
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生3,321名のうち部活動に加入している2,728名、高校生3,194名のうち部活動に加入している2,117名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

子どもの調査

生活時間の学年変化

●「学校」にいる時間や「生活」に要する時間は、学年による差が小さい。
●中１で「部活動」の時間ができることで、「睡眠」と「放課後」の時間が短くなる。
●中３と高３は「部活動」の時間が短くなり、「放課後の時間」（学習など）が長くなる。

●図表４：生活時間（学年別）



＊「部活動」は中学生と高校生のみにたずねた。「放課後の時間」は「遊び」「勉強」「習い事」「メディア」「人と過ごす」「その他の時間」の合計。
＊行為者平均ではなく全体平均を示しているため、たとえば「部活動」は加入していない生徒やその日に活動がなかった生徒も母数に含めた時間になっている。

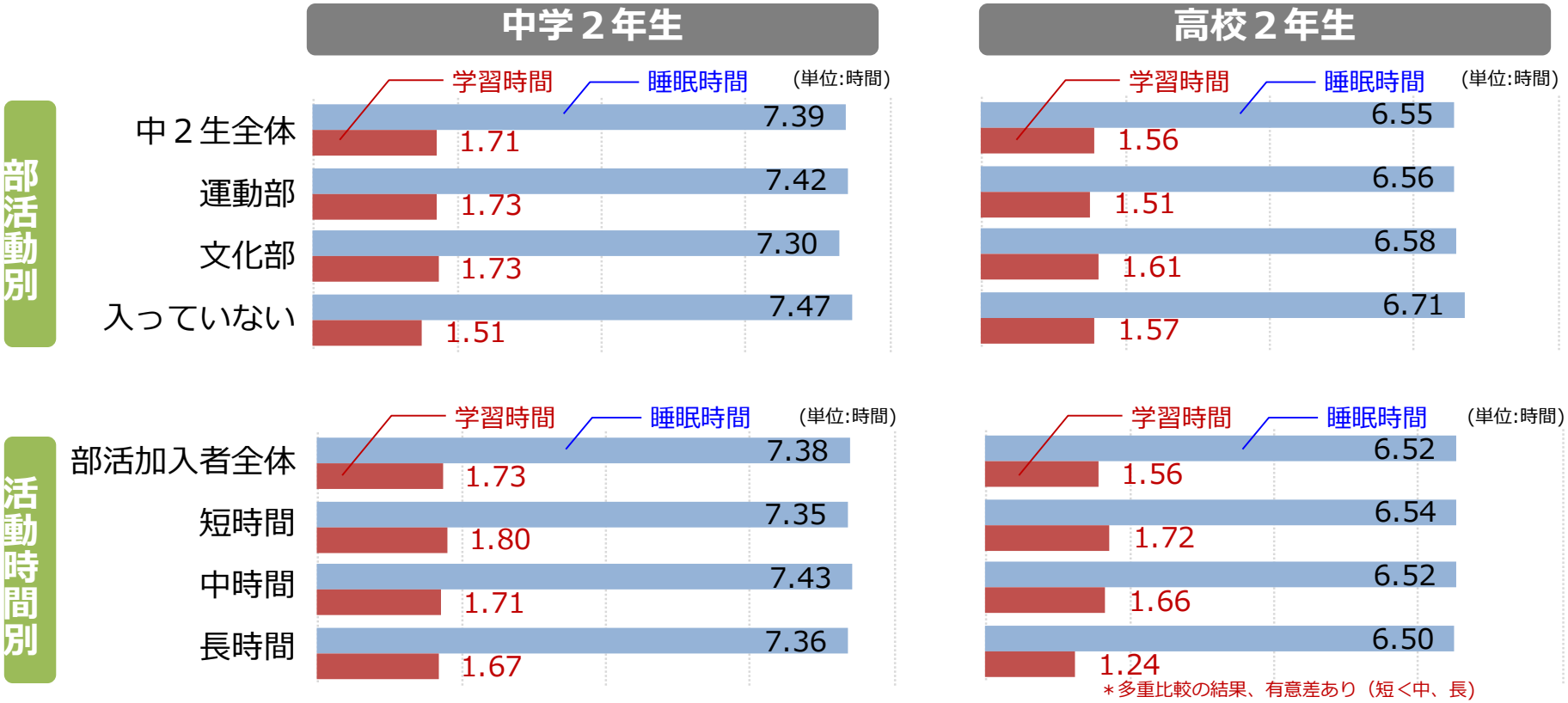
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第２回放課後の生活時間調査」(2013年11月実施)
＊対象：小学生2,407名、中学生3,282名、高校生2,411名。

子どもの調査

生活時間との関連

●部活動加入や活動時間の長さと睡眠時間や学習時間の長さには、強い関連が見られない。部活動に入っていることで睡眠時間や学習時間が短くなることはない様子。
●ただし、高校生の「長時間」活動者だけは、学習時間が短い傾向がみられた。

●図表５：睡眠時間・学習時間（部活動別/活動時間別）



＊「活動時間」は、部活動加入者について週あたりの活動時間をほぼ均等になるように「短時間」(週10時間以下)、「中時間」(週10時間より長く17.5時間以下)、「長時間」(週17.5時間より長い)に3分割した。

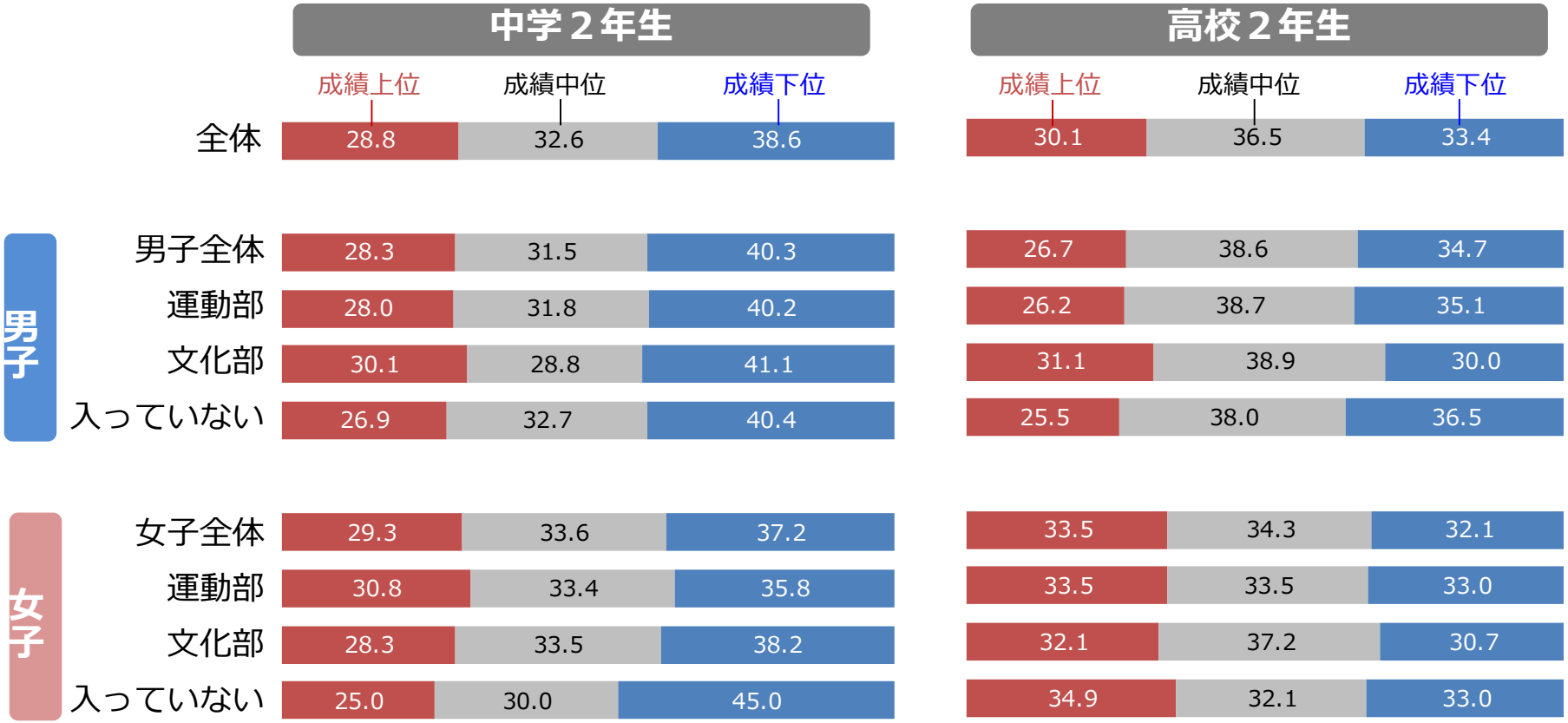
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学２年生1,056名、高校２年生1,006名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

子どもの調査

成績との関連

●男子も女子も、部活動に入っているかどうかと学校の成績は強い関連がみられない。
●中学生は、女子の「入っていない」生徒でわずかに成績下位層が多い。
●高校生は、男子の「文化部」の生徒でわずかに成績上位層が多い。

●図表６：学年における成績（部活動別）



＊「学年における成績」は、国語、数学、理科、社会、英語の5教科について5段階の自己評価でたずねたものを合計し、「上位」「中位」「下位」が概ね3分の１ずつになるように分割。
回答に不備があるケースは、分析から除外した。学年により部活動の加入率が異なり、中3、高3で「入っていない」が多いため、ここでは中2、高2について分析した。

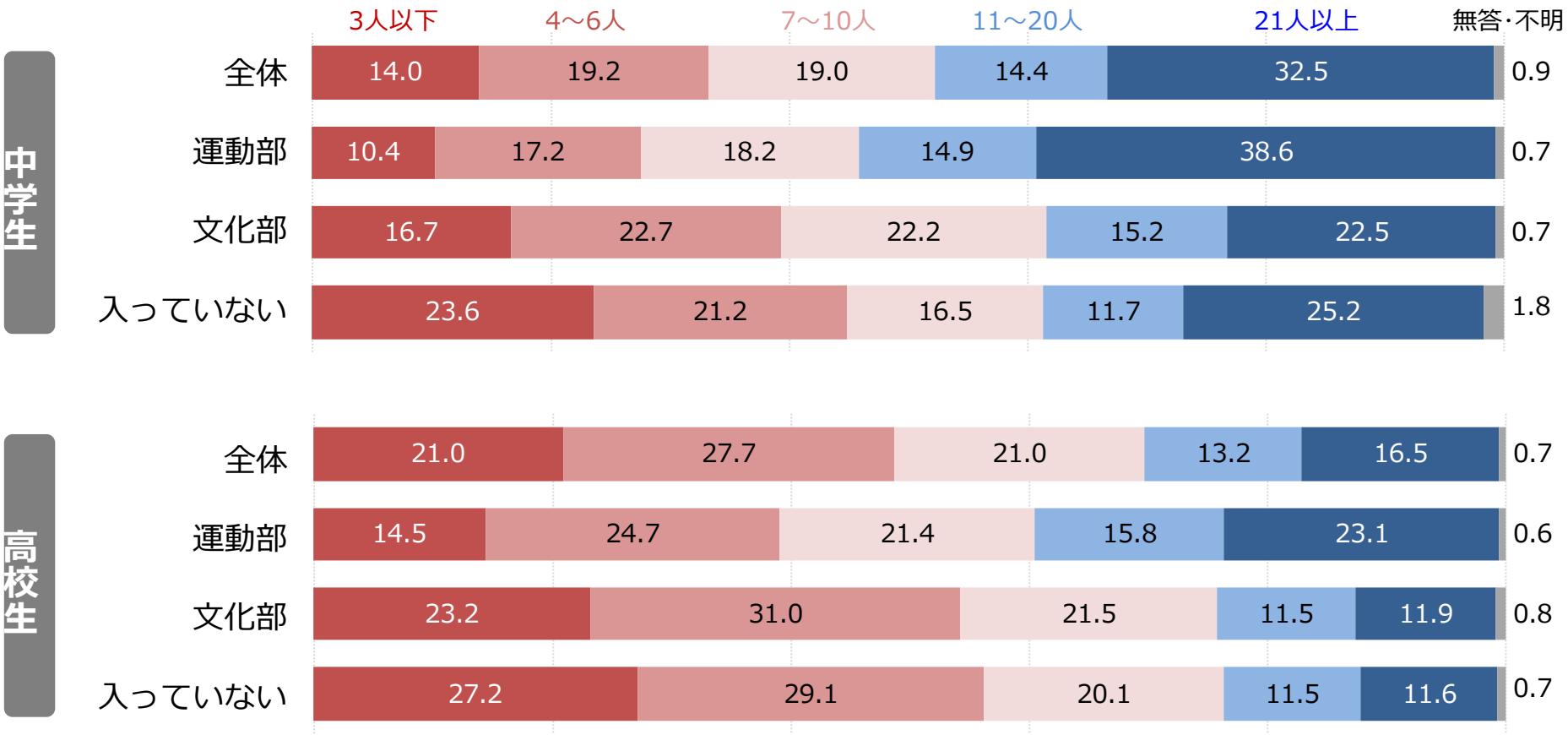
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学２年生1,056名、高校２年生1,006名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

子どもの調査

学校内の友人数との関連

●運動部は、学校内の友人の数が多い。「11～20人以上」と「21人以上」の合計は、中学生の「運動部」の場合、53.5%であるのに対して、「文化部」は37.7%、「入っていない」は36.9%。この傾向は、高校生も同様である。

●図表７：学校内の友人の数（部活動別）



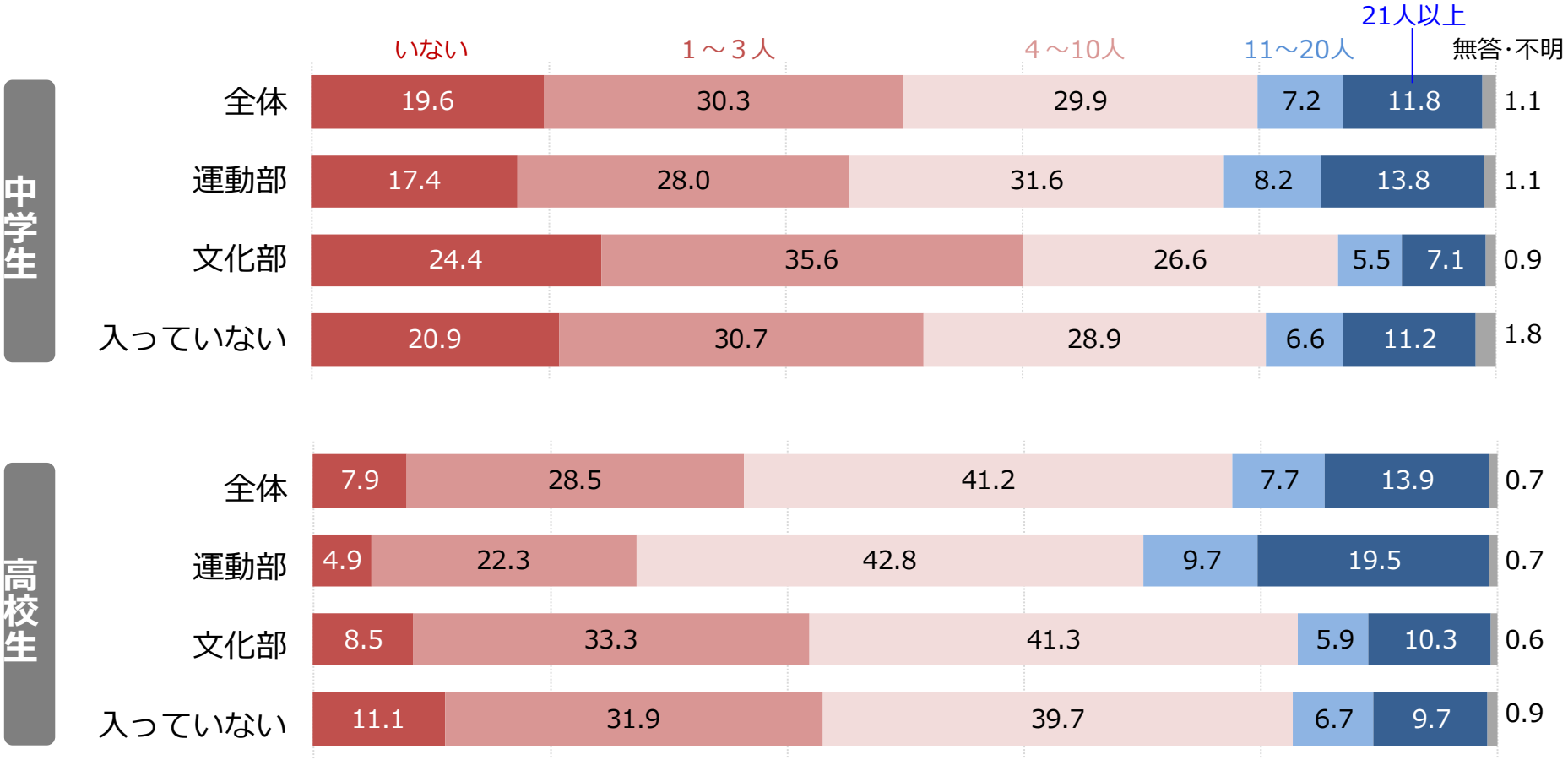
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生3,232名、高校生3,129名。。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

子どもの調査

学校外の友人数との関連

●運動部は、学校外の友人の数も多く、特に高校生でその傾向が強い。「11～20人以上」と「21人以上」の合計は、高校生の「運動部」の場合、29.2%であるのに対して、「文化部」は16.2%、「入っていない」は16.4%である。

●図表８：学校外の友人の数（部活動別）



＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生3,232名、高校生3,129名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

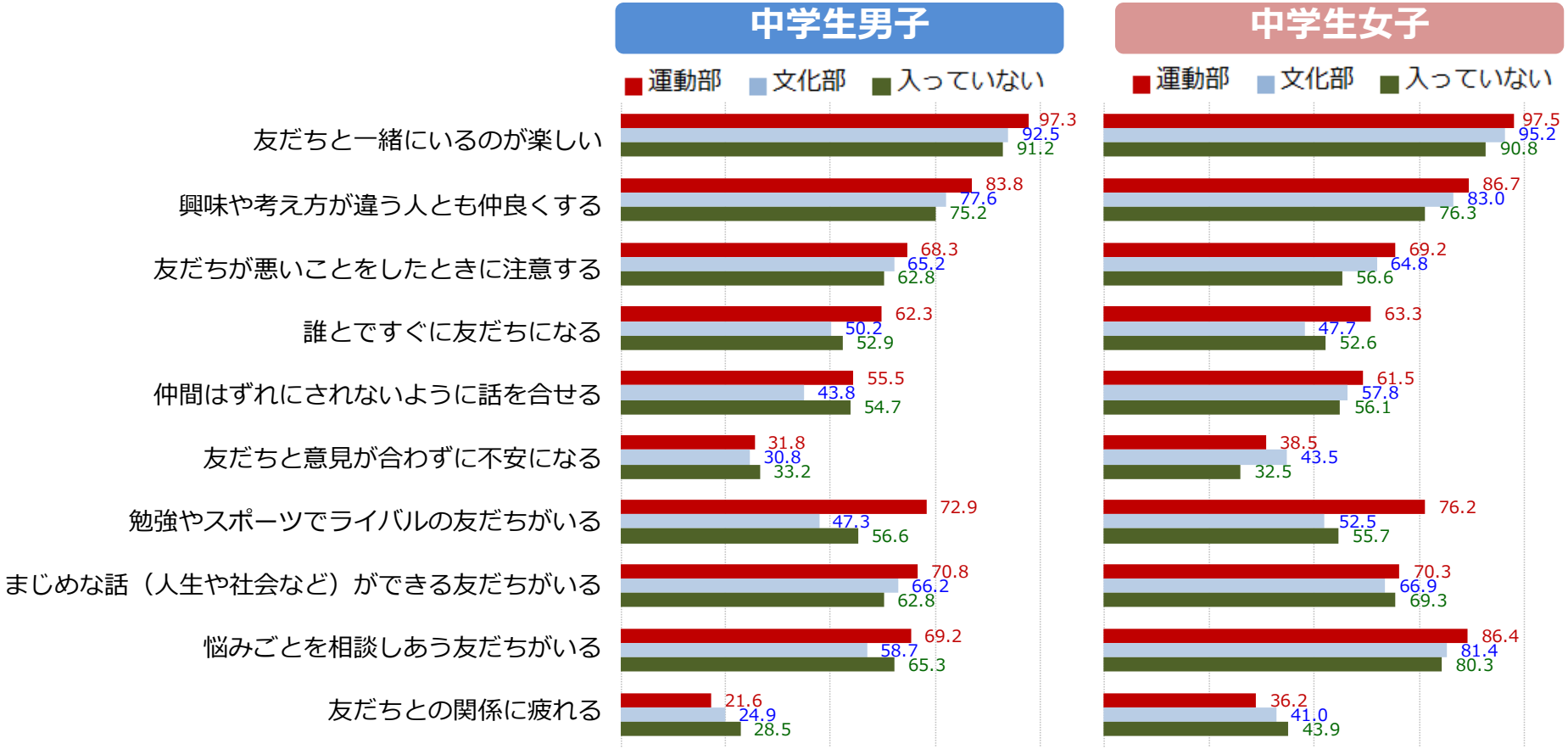
子どもの調査

友だち関係との関連（中学生）

- 運動部は、「興味や考え方が違う人とも仲良くする」「誰とでもすぐに友だちになる」「勉強やスポーツでライバルの友だちがいる」に「あてはまる」と回答する比率が高い。
- 文化部の女子は、「友だちと意見が合わずに不安になる」の肯定率が高い。

●図表９：友だち関係（中学生、部活動別）

＊「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計(%)



＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生男子1,545名、中学生女子1,677名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

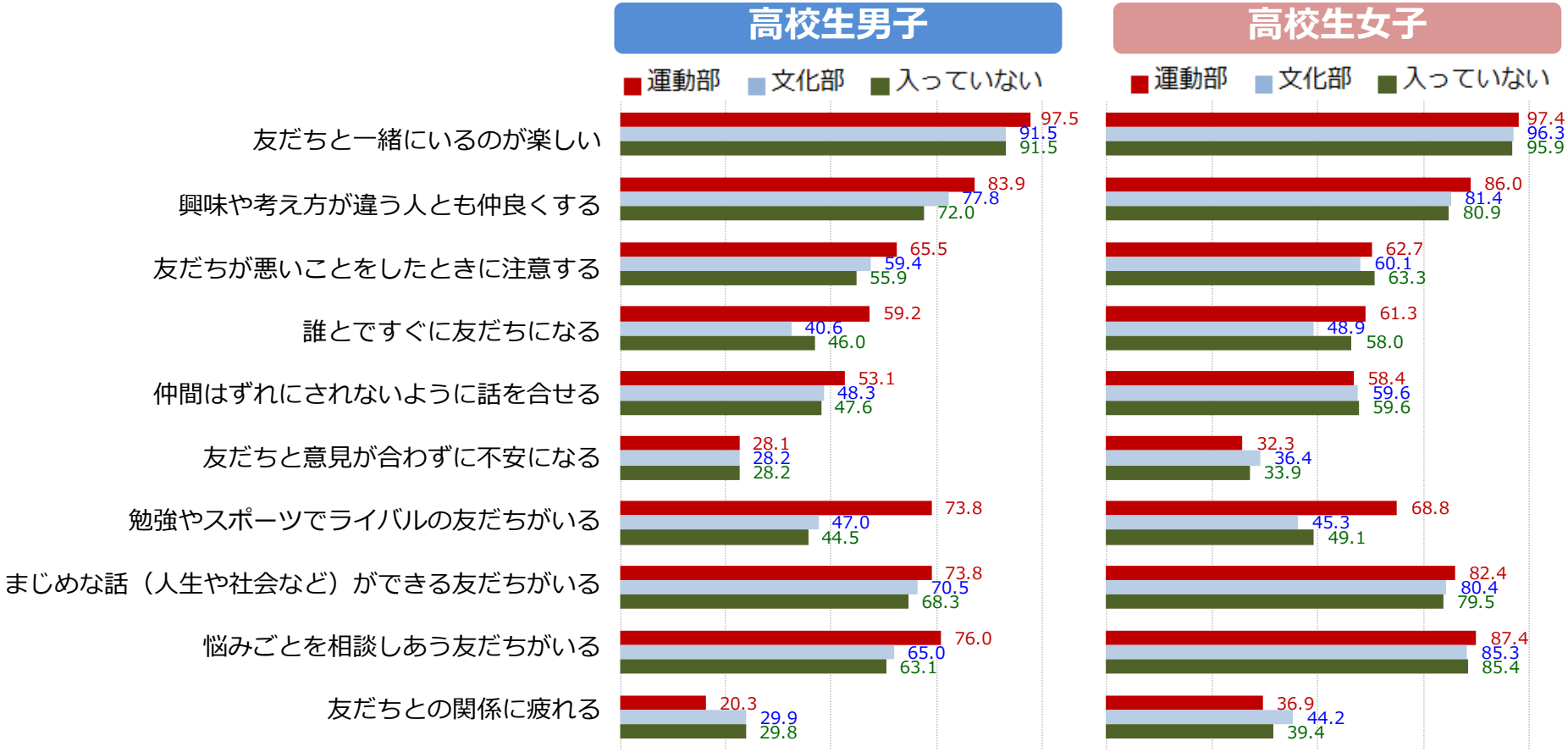
子どもの調査

友だち関係との関連（高校生）

●傾向は中学生と同様だが、女子は部活動に入っているかどうかでの差が比較的小さい。
●運動部の男子は、多くの項目で肯定率が高い一方で、「友だちとの関係に疲れる」の肯定率が低いなど、良好な友人関係を築いている。

●図表10：友だち関係（高校生、部活動別）

＊「とてもあてはまる」と「まああてはまる」の合計(%)



＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：高校生男子1,513名、高校生女子1,608名。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

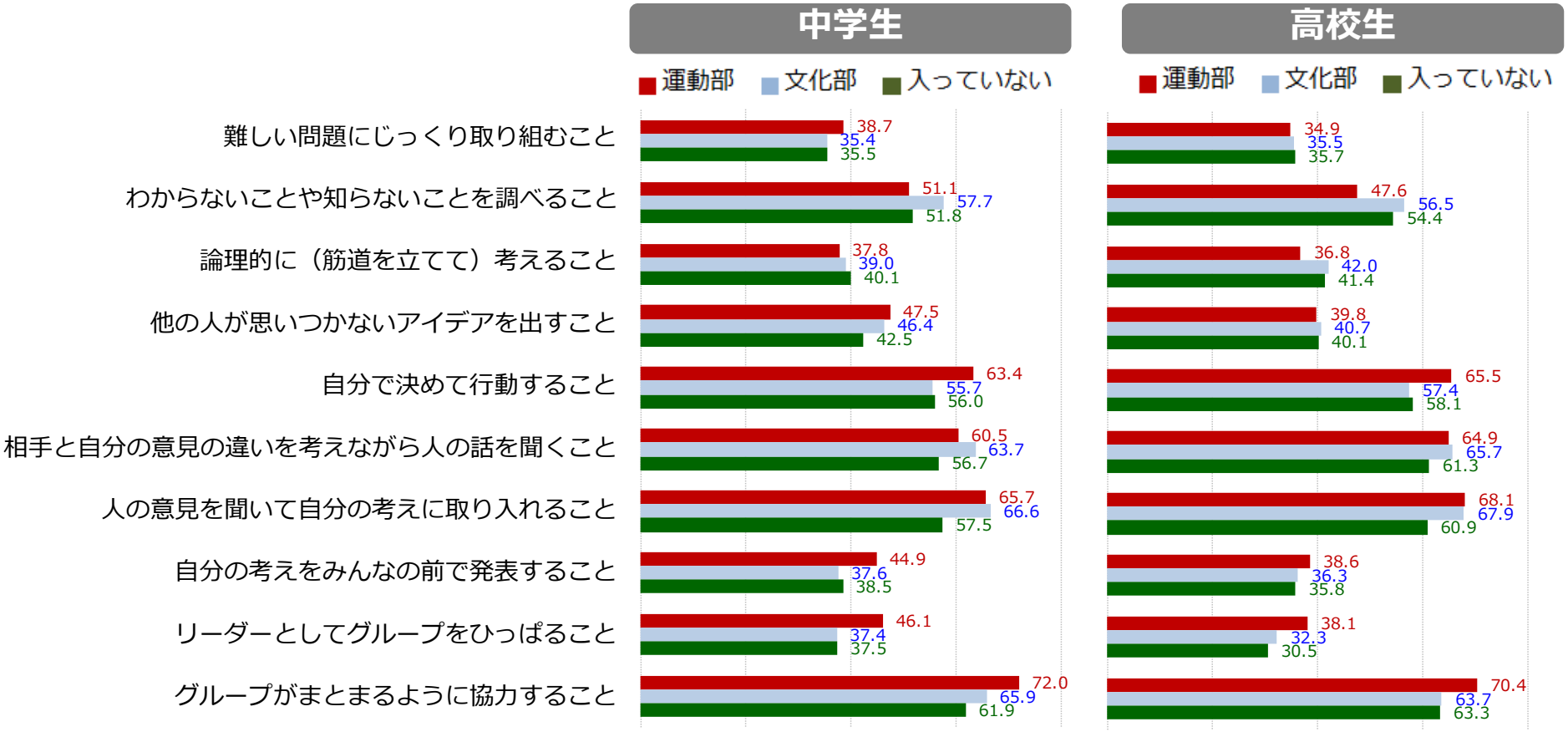
子どもの調査

社会情動的スキルとの関連

●運動部は、「自分で決めて行動する」「リーダーとしてグループをひっぱる」「グループがまとまるように協力する」に「得意」と回答する比率が高い。
●文化部は、「わからないことや知らないことを調べる」に「得意」と回答する比率が高い。

●図表11：得意なこと・苦手なこと（部活動別）

＊「とても得意」と「やや得意」の合計(%)



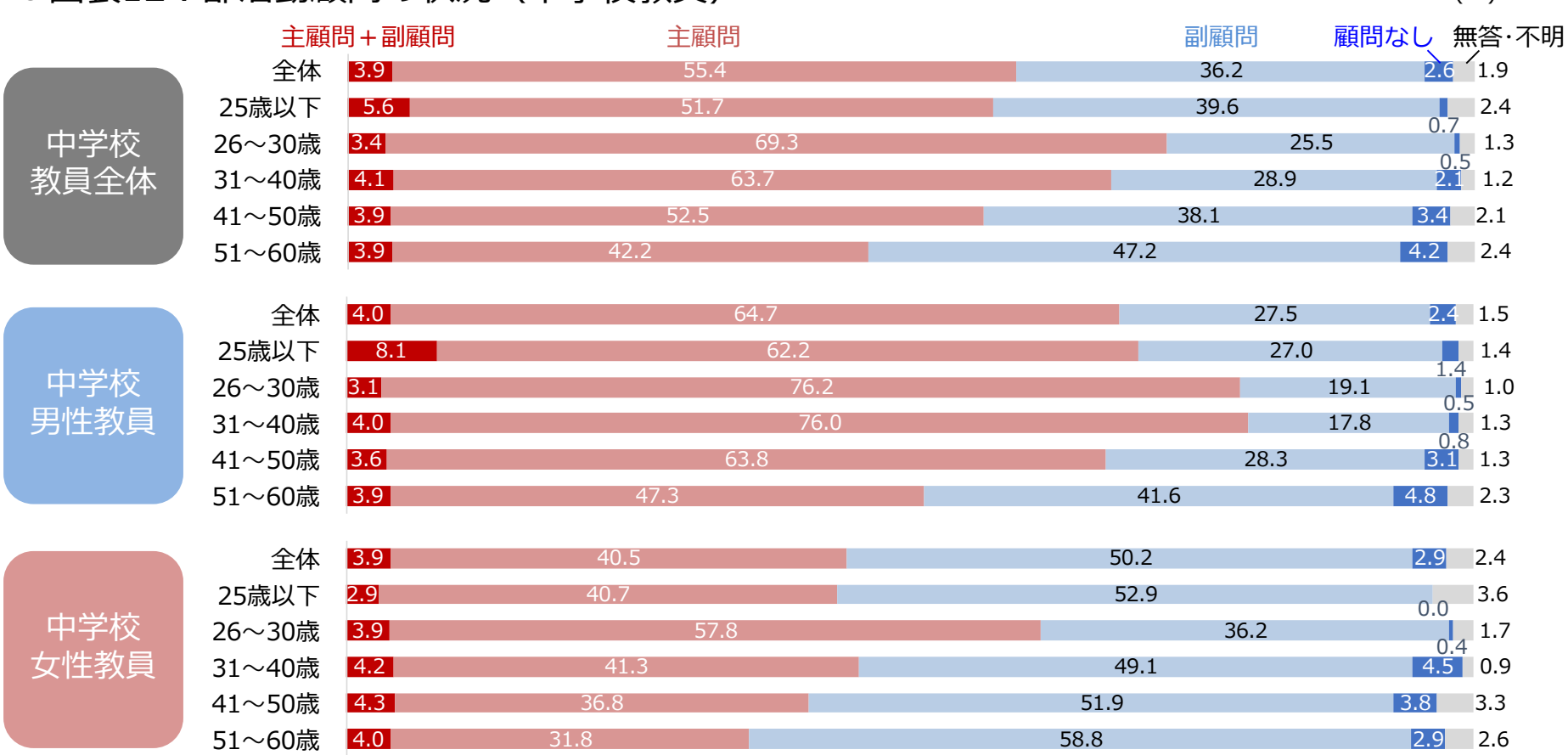
＊出典：東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2017」
＊対象：中学生3,232名、高校生3,129名。。「運動部と文化部の両方に入っている」生徒は図から省略した。

教員の調査

部活動顧問の状況（中学校）

- 中学校教員全体では、約６割が「主顧問」を、約４割が「副顧問」を担う。
- 男性教員のほうが女性教員よりも「主顧問」を担う比率が高い。
- 年齢では「26～30歳」「31～40歳」の教員が、「主顧問」を担う比率が高い。

●図表12：部活動顧問の状況（中学校教員）



＊年齢について、「61歳以上」「無答・不明」は図から省略した。

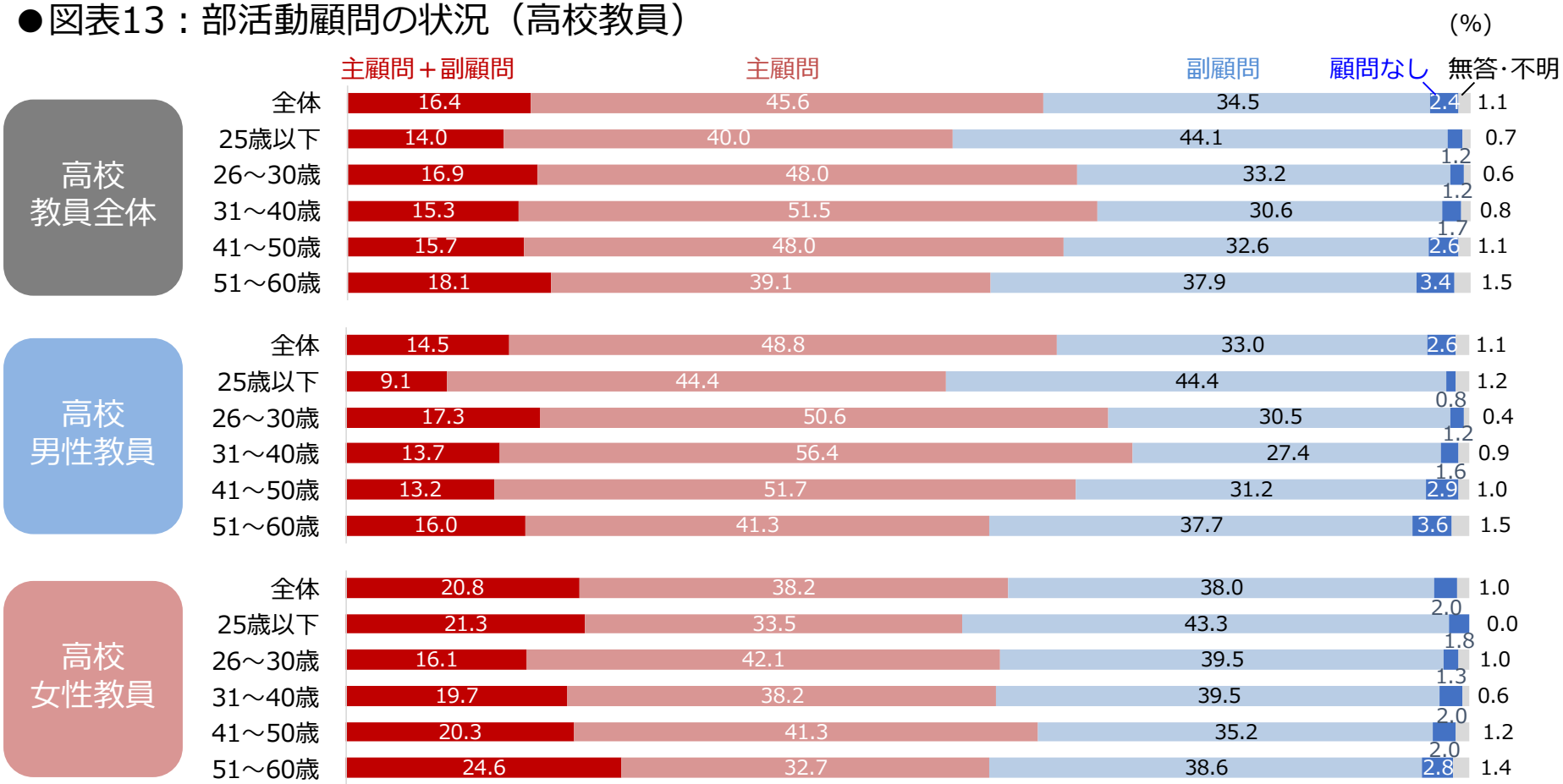
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名。

教員の調査

部活動顧問の状況（高校）

●高校教員全体では、2割弱が「主顧問・副顧問」の両方を担っている。
●男性教員も女性教員も約６割が主顧問を担っており、性差は小さい。
●年齢別に見ても、いずれの年代も６割程度が主顧問を担っていて、年齢差は小さい。

●図表13：部活動顧問の状況（高校教員）



＊年齢について、「61歳以上」「無答・不明」は図から省略した。

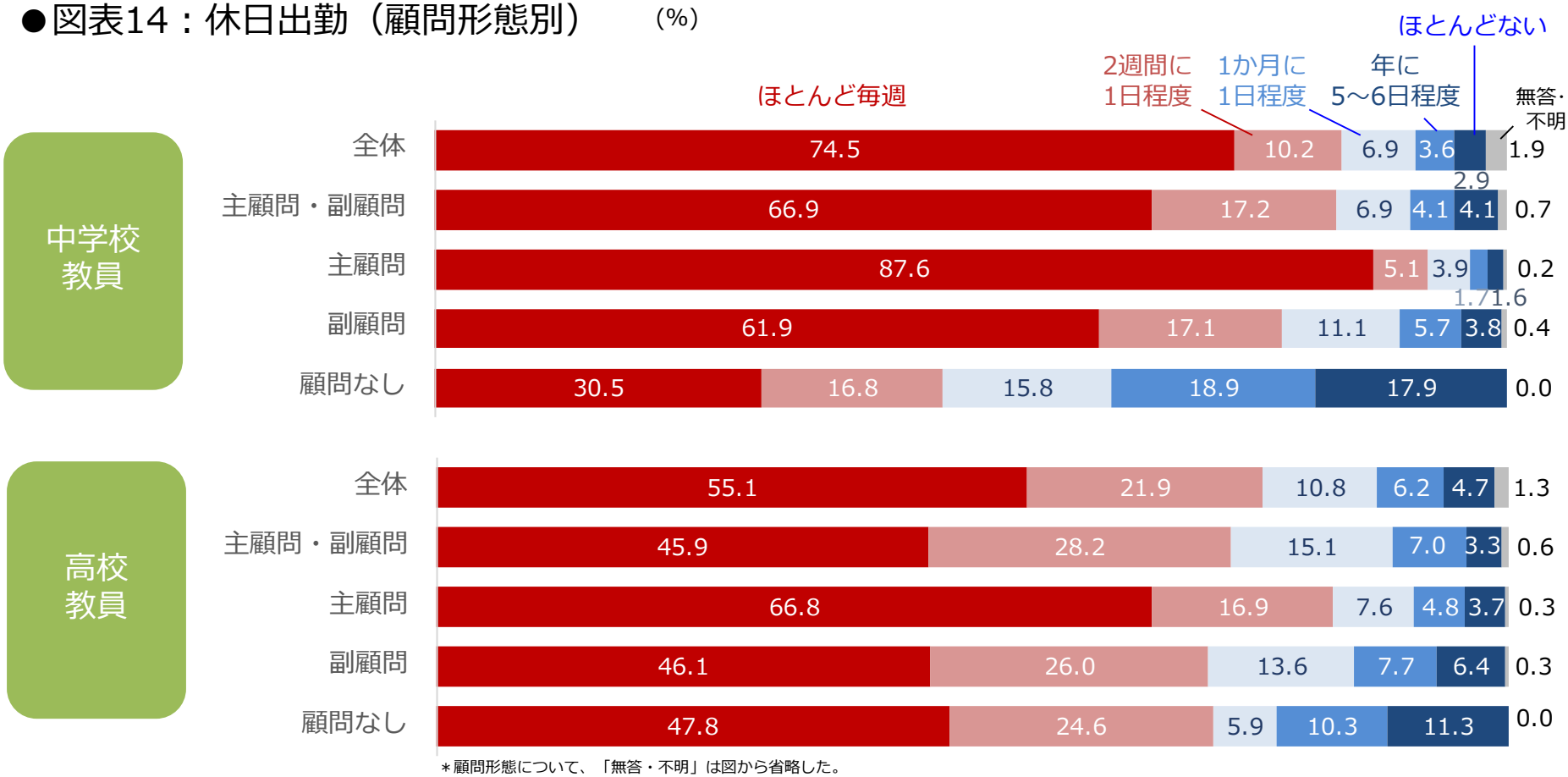
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

教員の調査

休日出勤

●「主顧問」の休日出勤が多く、「ほとんど毎週」は中学･主顧問で９割、高校･主顧問で7割。
●中学校教員は、顧問形態によって休日の出勤状況が異なる。
●高校教員は、顧問状況を問わず約半数が「ほとんど毎週」休日出勤をしている。

●図表14：休日出勤（顧問形態別）　（%）



＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」、「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名、公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

教員の調査

勤務等の実態

- 中学校教員は、「顧問なし」で学校にいる時間が短く、プライベートの時間がわずかに長い。
- 高校教員は、顧問状況と勤務等の実態に関連は見られない。
- 中学校教員も高校教員も、顧問の有無にかかわらず12時間前後も学校にいて、勤務が長い。

●図表15：勤務等の実態（顧問形態別）

①出・退勤時刻／学校にいる時間

②業務やプライベートの時間

（時間:分）

		出勤時刻	学校にいる時間	退勤時刻	教材研究・授業研究	持ち帰り仕事	新聞・読書	テレビ・音楽	睡眠
中学校教員	全体	7:23	12時間31分	19:54	1:33	0:46	0:23	0:48	5:49
	主顧問・副顧問	7:22	12時間34分	19:56	1:38	0:49	0:22	0:48	5:45
	主顧問	7:20	12時間45分	20:05	1:29	0:44	0:22	0:49	5:49
	副顧問	7:28	12時間13分	19:41	1:36	0:49	0:24	0:47	5:49
	顧問なし	7:25	11時間16分	18:41	1:38	0:55	0:29	0:53	6:00
高校教員	全体	7:39	11時間37分	19:16	0:47	1:48	0:34	0:49	5:54
	主顧問・副顧問	7:40	11時間34分	19:14	0:46	1:52	0:34	0:48	5:50
	主顧問	7:38	11時間47分	19:25	0:48	1:44	0:32	0:48	5:55
	副顧問	7:40	11時間26分	19:06	0:45	1:50	0:35	0:50	5:54
	顧問なし	7:37	11時間27分	19:04	0:48	1:50	0:37	0:52	5:52

＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。
＊平均時刻は、「6時ごろ」を「6時」、「6時半ごろ」を「6時30分」などとして換算した。

＊平均時間は、「ほとんどしない」を「0分」、「30分くらい」を「30分」などとして換算した。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」、「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名、公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

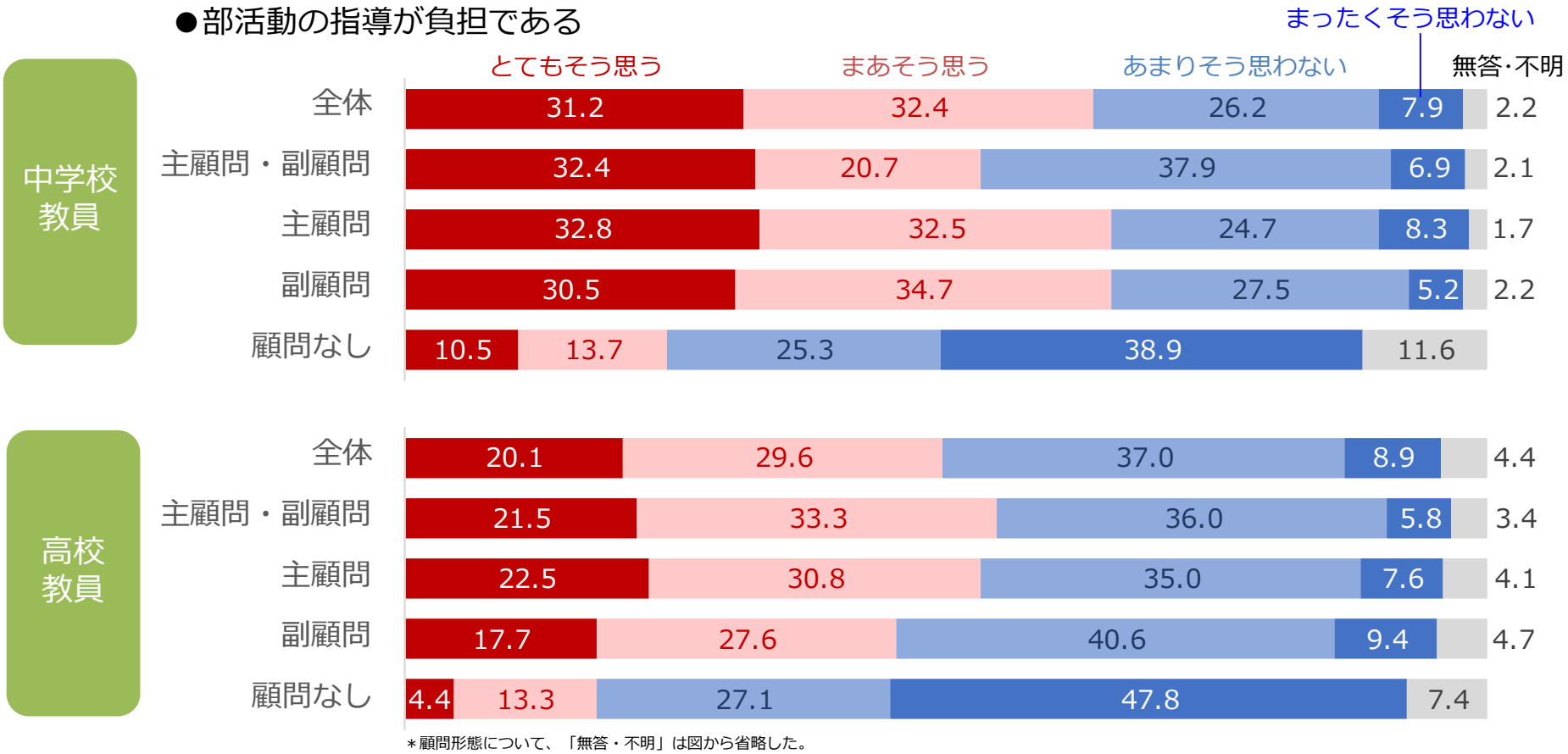
教員の調査

部活動の負担感

●中学校教員の６割、高校教員の５割が、「部活動の指導が負担である」を肯定。
●中学校教員は「主顧問・副顧問」で肯定率が１割程度低いが、顧問形態による差は小さい。
●高校教員は「副顧問」で肯定率が1割程度低いが、顧問形態による差は小さい。

●図表16：部活動の負担感（顧問形態別）

●部活動の指導が負担である



＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」、「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名、公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

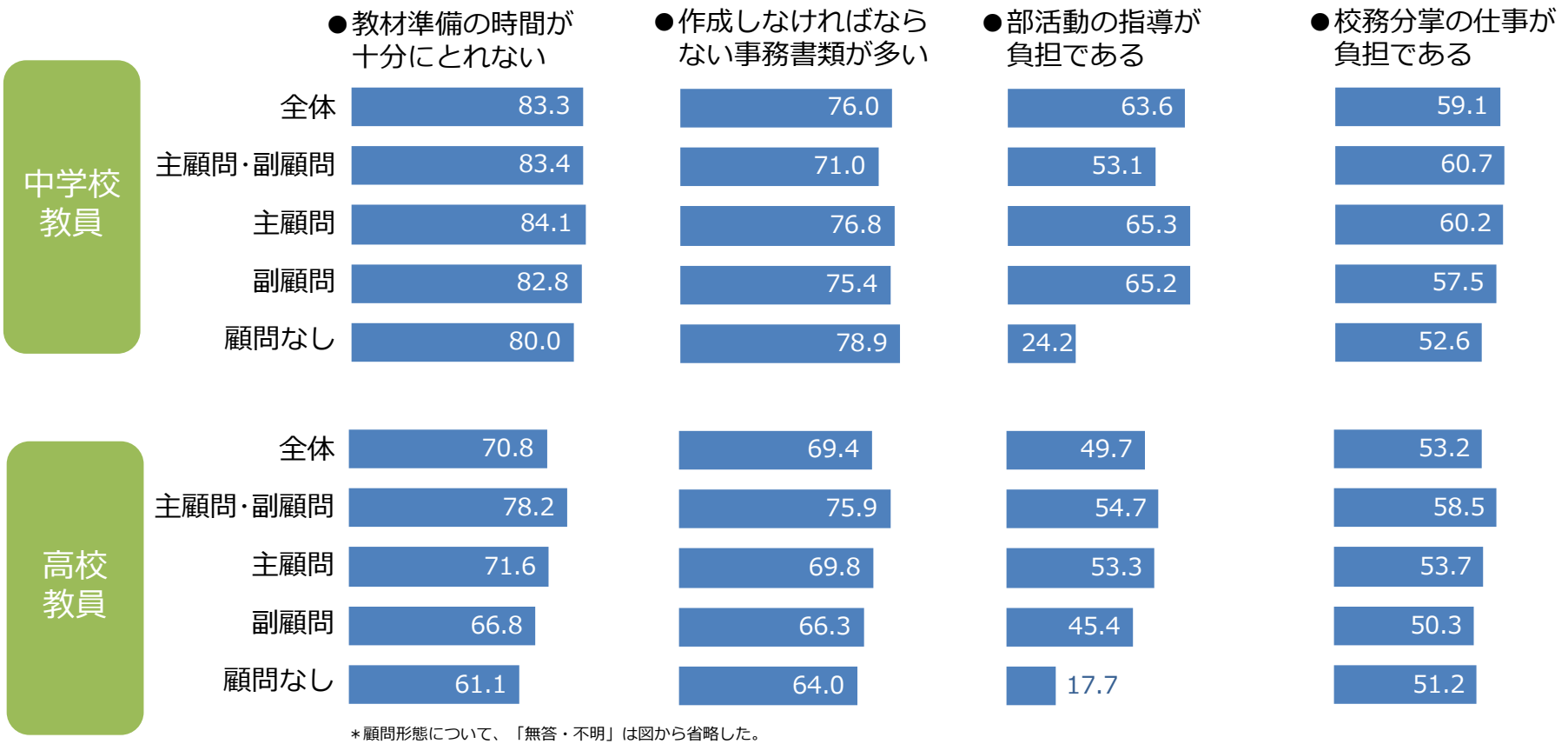
教員の調査

業務の負担感

●「部活動の指導」以外の負担感も大きい。全体に業務量の多さが類推される。
●中学校教員は「部活動の指導」以外の項目について、顧問形態による差は小さい。
●高校教員は「教材準備の時間不足」「事務書類が多い」で、顧問形態による差がわずかにある。

●図表17：業務の負担感（顧問形態別）

＊「とてもそう思う」＋「まあそう思う」の合計(%)



＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」、「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名、公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

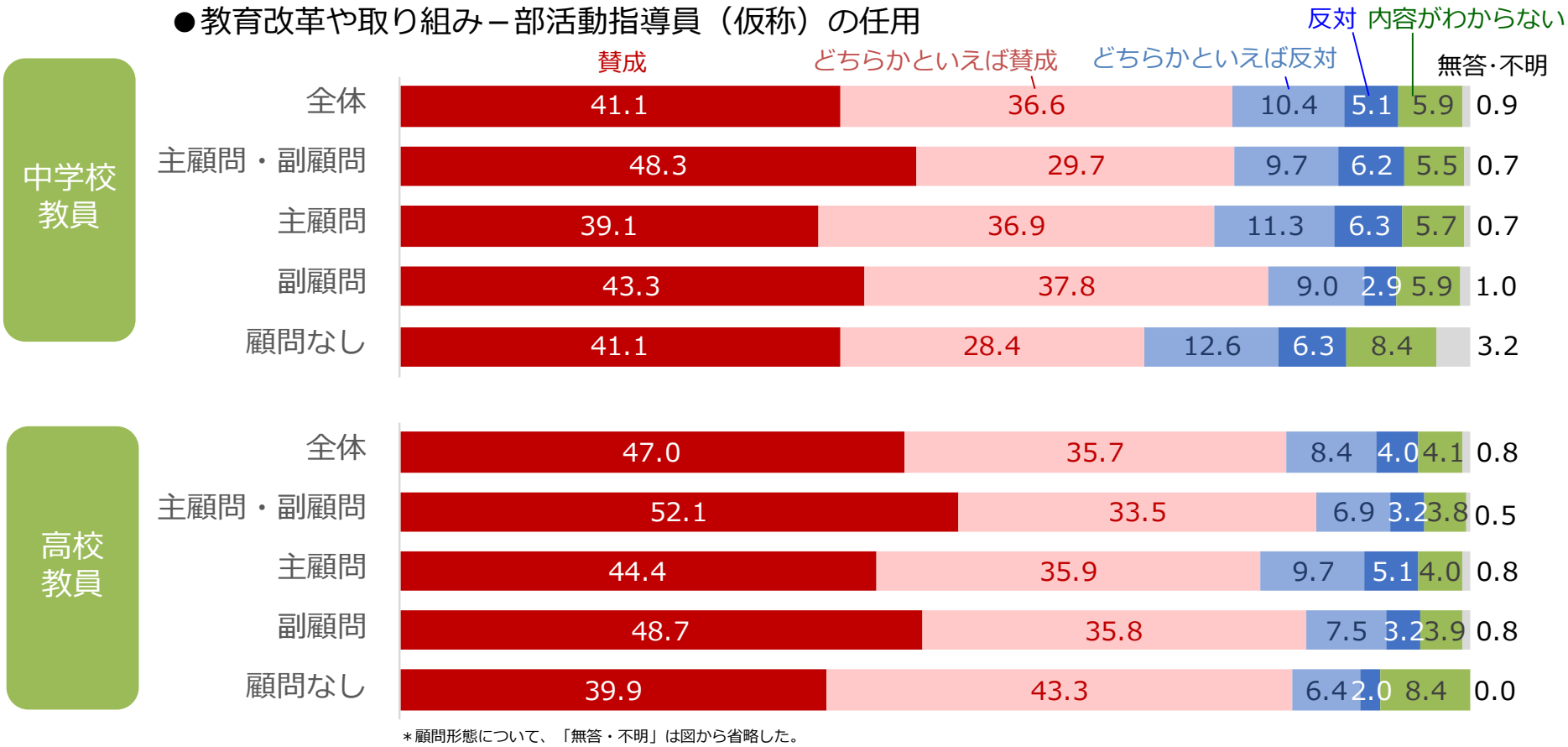
教員の調査

外部指導員任用に関する意見

- 中学校教員、高校教員ともに８割が、「部活動指導員の任用」に賛成。
- 中学校教員は「顧問なし」で肯定率が１割程度低いが、顧問形態による差は小さい。
- 高校教員は、顧問形態による差がほぼ見られない。

●図表18：外部指導員任用に関する意見（顧問形態別）

●教育改革や取り組み－部活動指導員（仮称）の任用



＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」、「第６回学習指導基本調査(高校版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名、公立高校教員6,436名、私立高校教員1,887名。

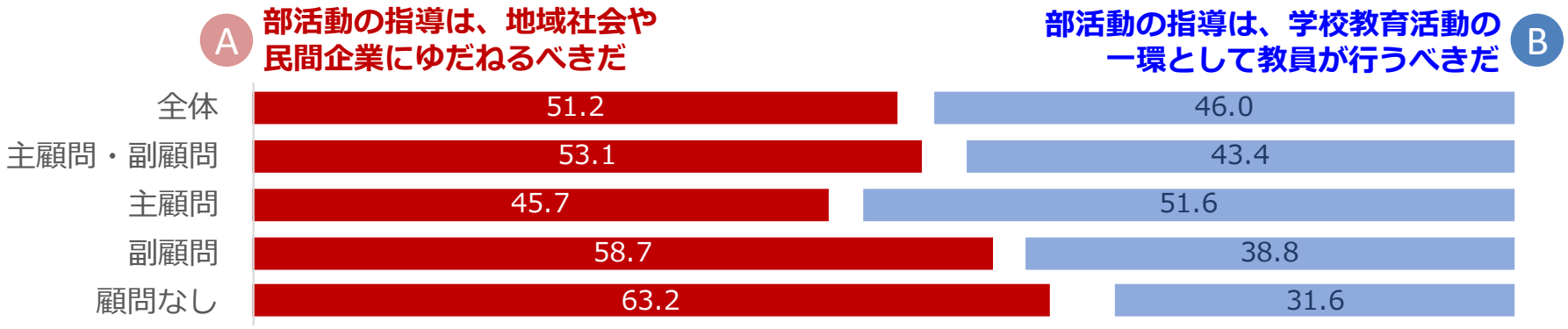
教員の調査

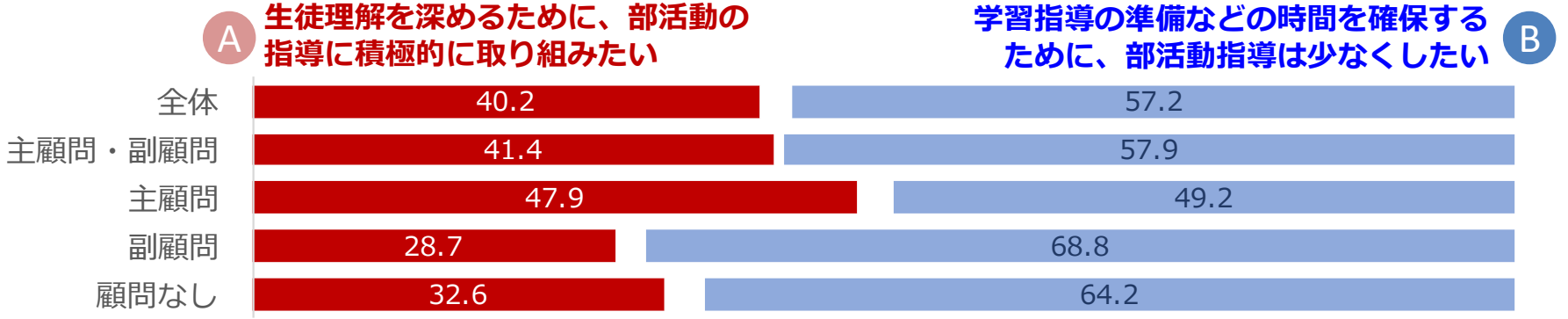
部活動に対する意見

●部活動を「A:地域社会等にゆだねる」か「B:教員が行うべき」かでは、意見が二分された。
●部活動に「A:積極的に取り組みたい」か「B:少なくしたいか」では、Bが6割と多かった。
●「主顧問」は、「教員が行うべき」「積極的に取り組みたい」という意見がやや多い。

●図表19：部活動に対する意見（中学校教員、顧問形態別）

●AとBのどちらに賛成か





＊顧問形態について、「無答・不明」は図から省略した。
＊「無答・不明」があるために、AとBの合計は100%にならない。

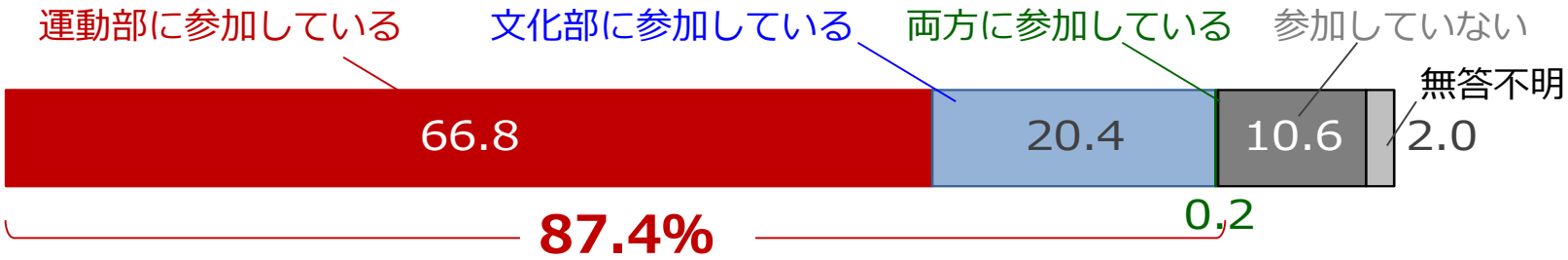
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第６回学習指導基本調査(小・中版)」（2016年8～9月実施）
＊対象：中学校教員3,689名。

保護者の調査

部活動に対する評価

- 中２生の９割弱が部活動に参加。※対象が異なるが、子ども調査の結果(図1)とほぼ同じ。
- 子どもが部活動に参加している保護者の９割は、「楽しく部活動に参加している」を肯定。
- 同じく９割の保護者は、「子どもの成長に役に立っている」を肯定。

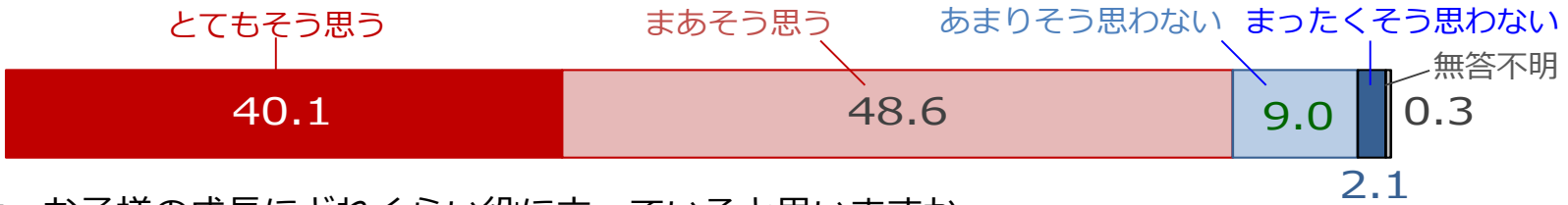
●図表20：部活動の加入率（中２生保護者）



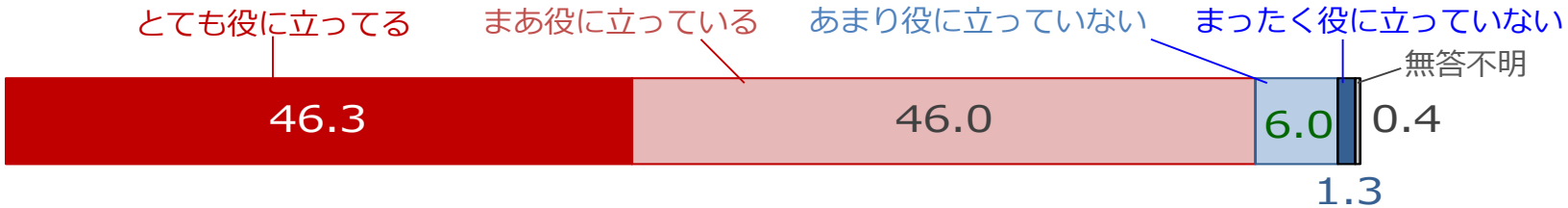
以下は、「参加している」と回答した保護者のみ

●図表21：子どもの様子（中２生保護者）

●あなたから見て、お子様は楽しく部活動に参加していると思いますか。



●部活動は、お子様の成長にどれくらい役に立っていると思いますか。



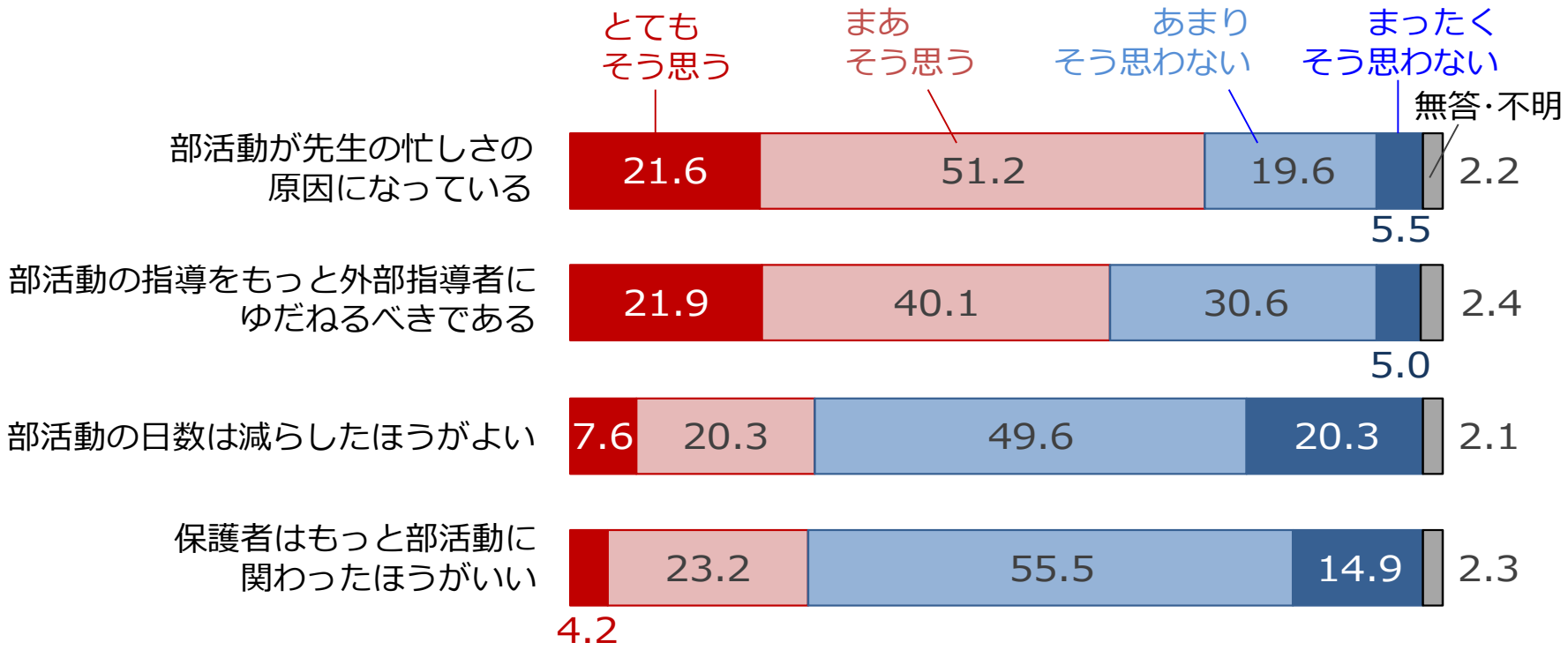
＊出典：ベネッセ教育総合研究所・朝日新聞社「学校教育に対する保護者の意識調査2018」（2017年12月~2018年1月実施）
＊対象：公立中学校に子どもを通わせる中２生の保護者3,015名。

保護者の調査

部活動に対する意見

- 保護者の7割が、「先生の忙しさの原因になっている」を肯定。
- ６割が「もっと外部指導者にゆだねるべき」と考えている。
- 「日数を減らしたほうが良い」「保護者はもっとかかわったほうがいい」の肯定は、3割以下。

●図表22：部活動に対する意見（中２生保護者）



＊出典：ベネッセ教育総合研究所・朝日新聞社「学校教育に対する保護者の意識調査2018」（2017年12月~2018年1月実施）
＊対象：公立中学校に子どもを通わせる中２生の保護者3,015名。

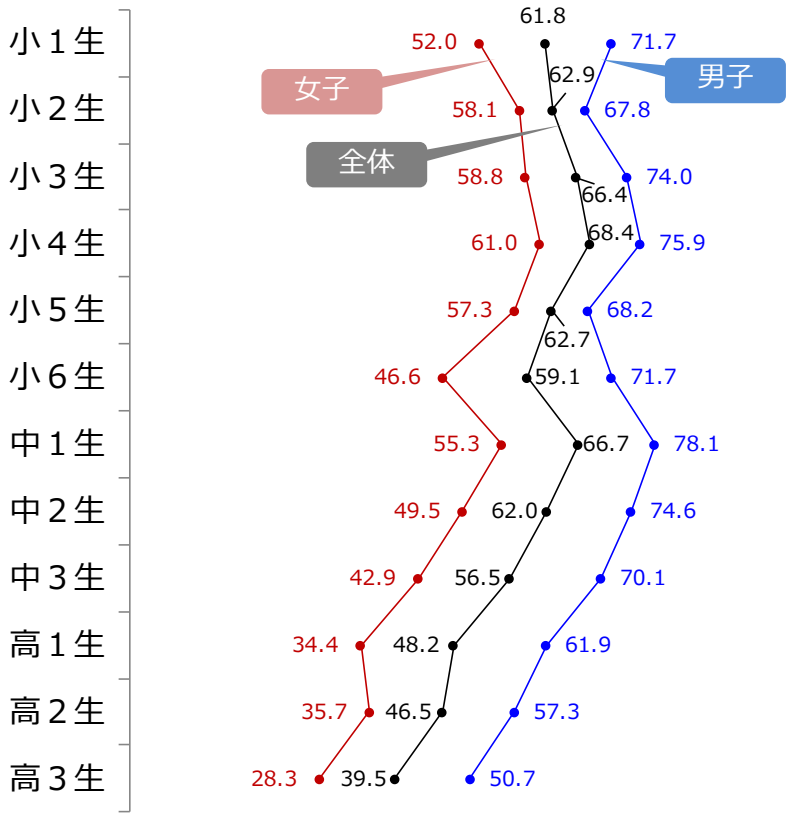
保護者の調査

子どものスポーツ活動の実態

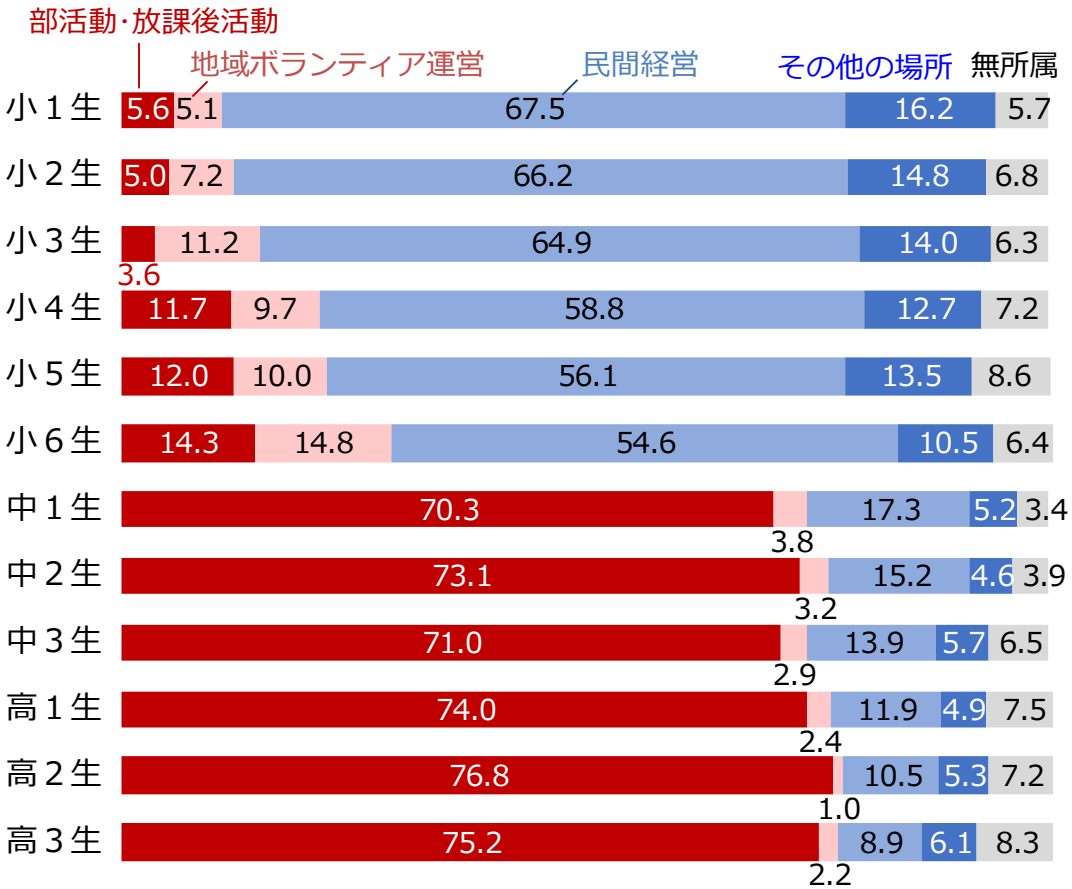
- ●スポーツ活動率は、女子よりも男子の方が高い。
- ●全体の比率は、小４生68.4%→小６生59.1%→中１生66.7%と推移し、その後は低下。
- ●活動場所は、小学生までは「民間経営」が多く、中高生は「部活動･放課後活動」が多い。

●図表23：スポーツ活動率

●過去１年間で定期的にスポーツをしていた比率（%）



●図表24：スポーツ活動の活動場所（内訳比率）



＊「部活動･放課後活動」は「部活動」「放課後活動」の合計、「民間経営」は「民間企業が経営する団体･教室」「個人が経営する団体･教室」の合計、「その他の場所」は「自治体･公益法人運営」「その他」の合計。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第３回学校外教育活動に関する調査」（2017年３月実施）

＊対象：調査対象は３歳から18歳（高３生）の子どもを持つ保護者、うち小１生から高３生の保護者12,360名を分析。第１子について回答。

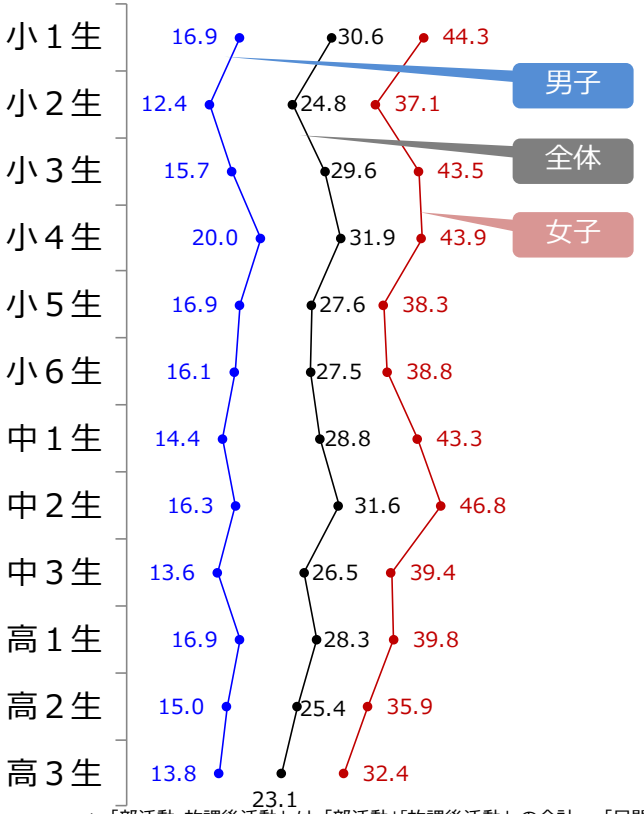
保護者の調査

子どもの芸術・音楽活動の実態

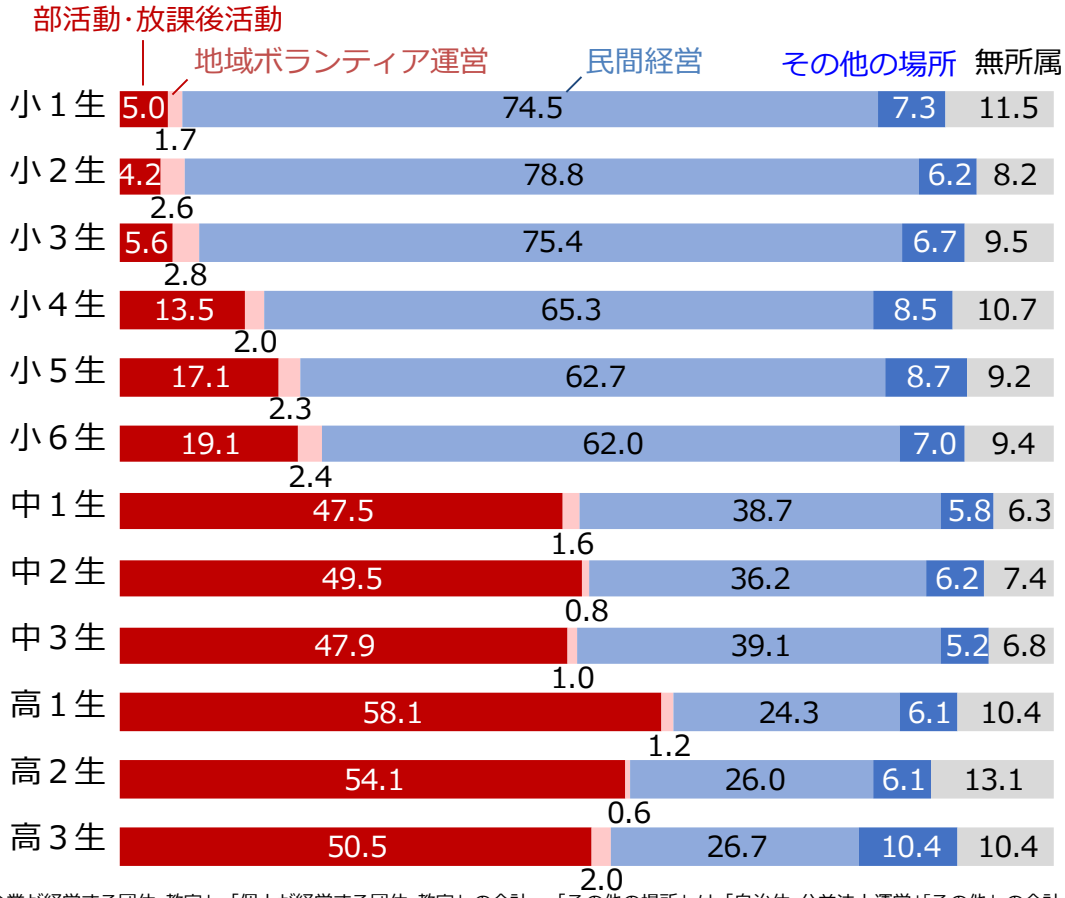
- 芸術・音楽活動率は、男子よりも女子の方が高い。
- 全体の比率は、小４生31.9%、中２生31.6%が高めだが、全体に学年差は小さい。
- 活動場所は、小学生までは「民間経営」が多く、中高生は「部活動・放課後活動」が多い。

●図表25：芸術・音楽活動率

●過去１年間で定期的に芸術・音楽をしていた比率（%）



●図表26：芸術・音楽活動の活動場所（内訳比率）



＊「部活動・放課後活動」は「部活動」「放課後活動」の合計、「民間経営」は「民間企業が経営する団体・教室」「個人が経営する団体・教室」の合計、「その他の場所」は「自治体・公益法人運営」「その他」の合計。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第３回学校外教育活動に関する調査」（2017年３月実施）

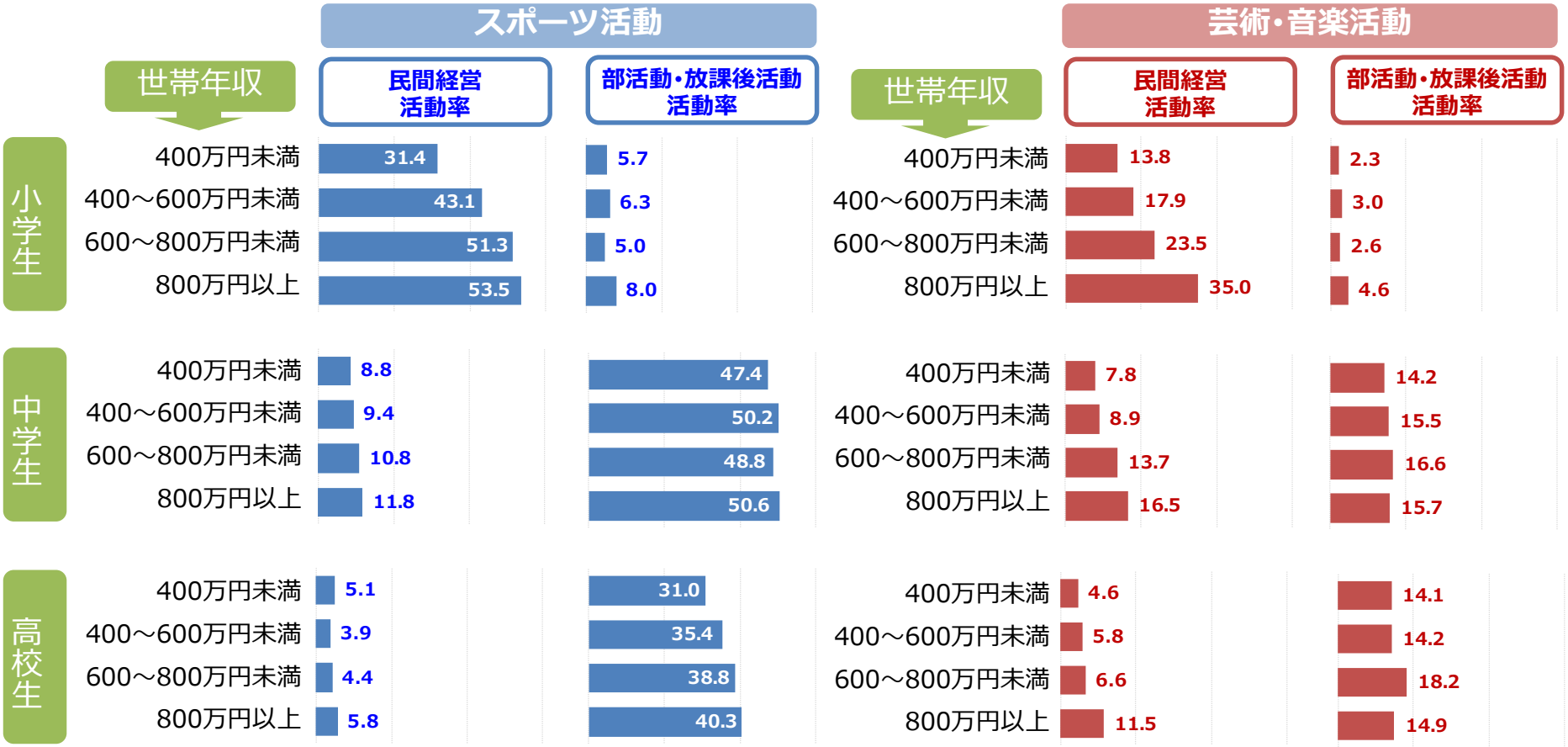
＊対象：調査対象は３歳から18歳（高３生）の子どもを持つ保護者、うち小１生から高３生の保護者12,360名を分析。第１子について回答。

保護者の調査

世帯年収による活動率の違い

●小学生は、「民間経営」が多く、世帯年収による活動率の格差が見られる。
●中学生・高校生は、「部活動・放課後活動」が多く、世帯年収による活動率の差は小さい。
●芸術・音楽活動は「民間経営」の活動率が高く、高校生まで世帯年収による格差がある。

●図表27：世帯年収による活動率の違い（活動場所別）



＊「部活動・放課後活動」は「部活動」「放課後活動」の合計、「民間経営」は「民間企業が経営する団体・教室」「個人が経営する団体・教室」の合計。

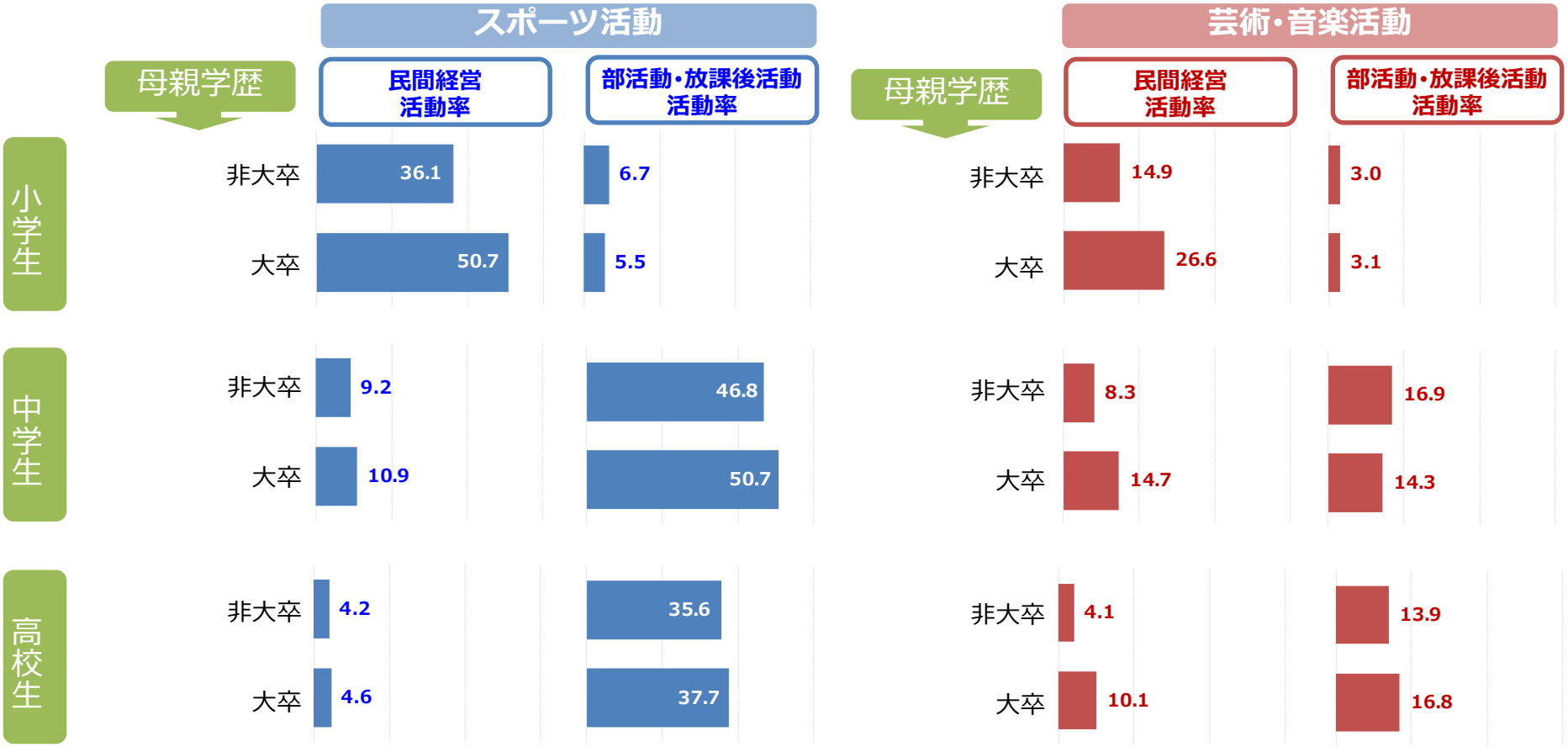
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第３回学校外教育活動に関する調査」（2017年３月実施）
＊対象：調査対象は３歳から18歳（高３生）の子どもを持つ保護者、うち小１生から高３生の保護者12,360名を分析。第１子について回答。

保護者の調査

母学歴による活動率の違い

●小学生は、「民間経営」が多く、母親の学歴による活動率の格差が見られる。
●中学生･高校生は、「部活動･放課後活動」が多く、母親の学歴による活動率の差は小さい。
●芸術･音楽活動は「民間経営」の活動率が高く、高校生まで母親の学歴による格差がある。

●図表28：母学歴による活動率の違い（活動場所別）



＊「部活動･放課後活動」は「部活動」「放課後活動」の合計、「民間経営」は「民間企業が経営する団体･教室」「個人が経営する団体･教室」の合計。

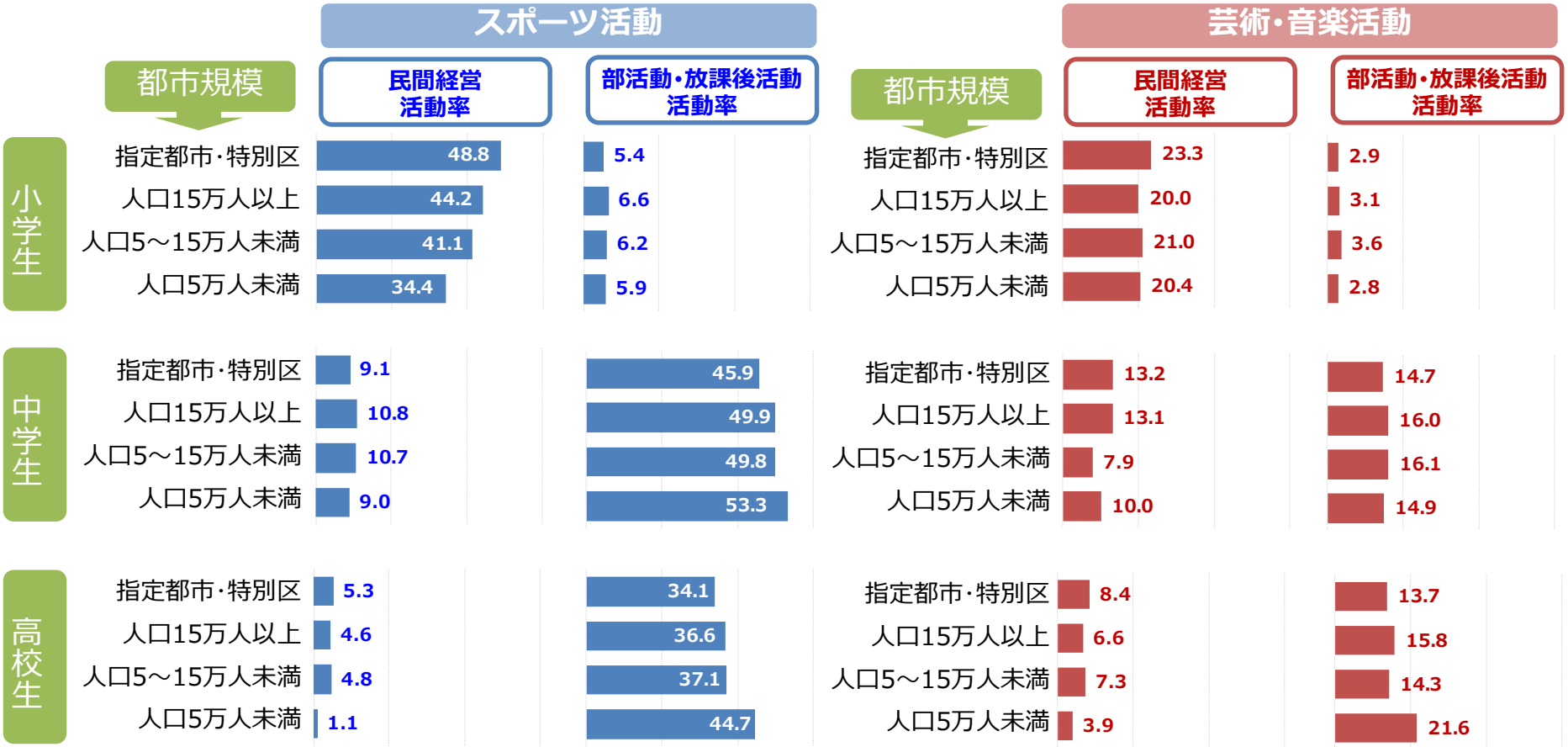
＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第３回学校外教育活動に関する調査」（2017年３月実施）
＊対象：調査対象は３歳から18歳（高３生）の子どもを持つ保護者、うち小１生から高３生の保護者12,360名を分析。第１子について回答。

保護者の調査

都市規模による活動率の違い

●小学生は、「民間経営」が多く、スポーツ活動で都市規模による活動率の格差が見られる。
●中学生・高校生は、「部活動・放課後活動」が多く、都市規模による活動率の差は小さい。スポーツ活動では、「人口５万人未満」に居住する生徒の活動率が高い。

●図表29：都市規模による活動率の違い（活動場所別）



＊「部活動・放課後活動」は「部活動」「放課後活動」の合計、「民間経営」は「民間企業が経営する団体・教室」「個人が経営する団体・教室」の合計。

＊出典：ベネッセ教育総合研究所「第３回学校外教育活動に関する調査」（2017年３月実施）
＊対象：調査対象は３歳から18歳（高３生）の子どもを持つ保護者、うち小１生から高３生の保護者12,360名を分析。第１子について回答。

保護者の調査

スポーツ活動の規定要因

●「母親の学歴」の影響は小学生にはあるが、中学生にはみられない。また、「世帯年収」の影響も中学生になるとかなり小さくなり、「自治体の人口規模」の影響も消える。
●この違いは、中学の部活動が家庭や地域の影響を受けず、平等性が高いためと考えられる。

●図表30：スポーツ活動を規定する要因（ロジスティック回帰分析）

		小学生				中学生			
		回帰係数	p値		オッズ比	回帰係数	p値		オッズ比
子どもの性	男子	0.855	0.000	***	2.351	1.264	0.000	***	3.538
	女子（基準カテゴリー）				1.000				1.000
子どもの成績	上位	0.398	0.000	***	1.489	0.368	0.001	**	1.445
	中位	0.252	0.020	*	1.287	0.286	0.023	*	1.331
	下位（基準カテゴリー）				1.000				1.000
父親の学歴	大卒	0.011	0.879		1.011	0.003	0.976		1.003
	大卒以外（基準カテゴリー）				1.000				1.000
母親の学歴	大卒	0.253	0.000	***	1.287	−0.039	0.695		0.961
	大卒以外（基準カテゴリー）				1.000				1.000
母親の嗜好	スポーツ活動好き	0.323	0.000	***	1.381	0.440	0.000	***	1.553
	スポーツ活動好きではない（基準カテゴ				1.000				1.000
世帯年収	年収1000万円以上	0.423	0.003	**	1.527	0.152	0.410		1.165
	年収800～1000万円	0.427	0.000	***	1.532	0.343	0.040	*	1.409
	年収600～800万円	0.408	0.000	***	1.504	0.255	0.095		1.290
	年収400～600万円	0.206	0.020	*	1.228	0.211	0.151		1.235
	年収400万円未満（基準カテゴリー）				1.000				1.000
自治体の人口規模	指定都市_特別区	0.379	0.001	**	1.461	−0.210	0.197		0.810
	人口15万人以上	0.244	0.027	*	1.277	−0.265	0.099		0.767
	人口5～15万人	0.078	0.501		1.081	0.009	0.959		1.009
	人口5万人未満（基準カテゴリー）				1.000				1.000
	定数	−0.727	0.000		0.483	−0.428	0.029		0.652
		−2Log likelihood=6169.780 χ2=404.815 df=13 p<.001 Nagelkerke R2=.103 *** p<.001, ** p<.01, * p<.05				−2Log likelihood=3032.634 χ2=317.394 df=13 p<.001 Nagelkerke R2=.157 *** p<.001, ** p<.01, * p<.05			

＊出典： 西島央、木村治生、鈴木尚子「小中学生の芸術・スポーツの活動状況に関する実証研究―地域、性、家庭環境による違いに注目して」『文化政策研究』第6号、2013年。分析に用いたデータは、ベネッセ教育総合研究所「第１回学校外教育活動に関する調査」（2009年３月実施）

保護者の調査

芸術・音楽活動の規定要因

●「父親の学歴」や「母親の学歴」の影響は、中学生になると弱まる。また、「世帯年収」の効果も、小学生は強いが中学生はなくなる。小学生までの習い事としての活動は家庭環境の影響を受けやすいが、中学の部活動はそうした影響を受けないためと推察される。

●図表31：芸術･音楽活動を規定する要因（ロジスティック回帰分析）

		小学生				中学生			
		回帰係数	p値		オッズ比	回帰係数	p値		オッズ比
子どもの性	男子	−1.526	0.000	***	0.217	−1.601	0.000	***	0.202
	女子（基準カテゴリー）				1.000				1.000
子どもの成績	上位	0.384	0.001	**	1.468	0.237	0.048	*	1.268
	中位	0.145	0.242		1.156	0.068	0.611		1.070
	下位（基準カテゴリー）				1.000				1.000
父親の学歴	大卒	0.287	0.000	***	1.332	0.252	0.016	*	1.287
	大卒以外（基準カテゴリー）				1.000				1.000
母親の学歴	大卒	0.333	0.000	***	1.396	0.162	0.113		1.175
	大卒以外（基準カテゴリー）				1.000				1.000
母親の嗜好	音楽活動好き	0.204	0.000	***	1.226	0.277	0.000	***	1.319
	音楽活動好きではない（基準カテゴリー）				1.000				1.000
	美術活動好き	0.143	0.000	***	1.153	0.186	0.000	***	1.204
	美術活動好きではない（基準カテゴリー）				1.000				1.000
世帯年収	年収1000万円以上	0.755	0.000	***	2.128	0.125	0.508		1.133
	年収800～1000万円	0.667	0.000	***	1.949	0.009	0.958		1.009
	年収600～800万円	0.480	0.000	***	1.616	−0.018	0.908		0.982
	年収400～600万円	0.129	0.193		1.138	−0.085	0.582		0.919
	年収400万円未満（基準カテゴリー）				1.000				1.000
自治体の人口規模	指定都市_特別区	−0.056	0.635		0.945	0.055	0.740		1.057
	人口15万人以上	−0.006	0.962		0.994	0.118	0.471		1.126
	人口5～15万人	0.004	0.975		1.004	0.269	0.118		1.309
	人口5万人未満（基準カテゴリー）				1.000				1.000
	定数	−1.287	0.000		0.276	−0.937	0.000		0.392
		−2Log likelihood=5941.897 χ2=901.223 df=14 p<.001 Nagelkerke R2=.215 *** p<.001, ** p<.01, * p<.05				−2Log likelihood=2967.253 χ2=435.716 df=14 p<.001 Nagelkerke R2=.210 *** p<.001, ** p<.01, * p<.05			

＊出典： 西島央、木村治生、鈴木尚子「小中学生の芸術・スポーツの活動状況に関する実証研究―地域、性、家庭環境による違いに注目して」『文化政策研究』第6号、2013年。分析に用いたデータは、ベネッセ教育総合研究所「第１回学校外教育活動に関する調査」（2009年３月実施）